

## インターナショナルオフィス年報

第6号(2014年度)

巻頭言	1
<b>【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】</b>	
香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題	2
4 & 1 プラン（「留学生 400 人の受け入れ・日本人学生 100 人の留学派遣」に向けての取組）進捗状況の報告	3
学術交流協定一覧	5
平成 26 年度香川大学国際交流資金事業 実施状況	7
平成 26 年度インターナショナルオフィス年間行事	8
2014 年度学長等表敬訪問	10
平成 26 年度インターナショナルウィークの報告	11
FD・SD ワークショップ	12
平成 26 年度学長主催外国人留学生交歓会を開催	14
帰国留学生ネットワーク タイ支部総会開催について	13
香川大学グローバル人材育成事業による英語ネイティブ教員の採用	14
民間宿舍借り上げ事業	16
大学の世界展開力強化事業について（SUIJI）	17
JICA との連携	18
<b>【国際研究支援センターに関わる報告】</b>	
第 5 回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウムの開催	22
チェンマイ大学に香川大学連携オフィスを開設	24
平成 26 年度国際研究支援センター研究会シリーズ（第 1 回）の開催	25
学術交流協定締結校との交流状況（受け入れ）	26
学術交流協定締結校との交流状況（派遣）	27
ブルネイ・ダルサラーム大学との学術交流 10 周年記念式典を開催	28
外国人研究者等の受け入れ状況	29
平成 25 年度国際学会・シンポジウム開催状況	31
日本学術振興会「二国間交流事業（オープンパートナーシップ共同研究）」によるブルネイ・ダルサラーム国と日本国における糖尿病及び肥満の比較研究を通じた国際貢献活動	32
<b>【留学生センターに関わる報告】</b>	
日本語教育カリキュラム等の報告	33
相談事業の報告	38
全学共通科目「Study Abroad」授業の報告	41
全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」（タイにおける研修）の実施	42
「トビタテ！ 留学 JAPAN 日本代表プログラム（地域人材コース）」への参画	44
海外語学研修プログラム（韓国語）の報告	45
第 20 回日本語語学研修プログラム報告	46
2014 年度留学生センター留学生の受け入れ	50
各部局主催の短期受入プログラムにおける日本語授業の報告	54
留学生対象各種進学説明会	54
課外教育行事	56
交流活動および地域住民との連携の報告	57
就職支援プログラム	60
<b>【資料】</b>	
香川大学インターナショナルオフィス規則	64
香川大学インターナショナルオフィス会議規程	67
香川大学国際研究支援センター規程	69
香川大学留学生センター規程	71
インターナショナルオフィス教職員一覧	73







# 香川大学インターナショナルオフィス年報

第6号(2014年度)

## 目次

巻頭言	1
<b>【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】</b>	
香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題	2
4 & 1 プラン(「留学生400人の受け入れ・日本人学生100人の留学派遣」 に向けての取組)進捗状況の報告	3
学術交流協定一覧	5
平成26年度香川大学国際交流資金事業 実施状況	7
平成26年度インターナショナルオフィス年間行事	8
2014年度学長等表敬訪問	10
平成26年度インターナショナルウィークの報告	11
FD・SD ワークショップ	12
平成26年度学長主催外国人留学生交歓会を開催	14
帰国留学生ネットワーク タイ支部総会開催について	13
香川大学グローバル人材育成事業による英語ネイティブ教員の採用	14
民間宿舍借り上げ事業	16
大学の世界展開力強化事業について(SUIJI)	17
JICAとの連携	18
<b>【国際研究支援センターに関わる報告】</b>	
第5回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウムの開催	22
チェンマイ大学に香川大学連携オフィスを開設	24
平成26年度国際研究支援センター研究会シリーズ(第1回)の開催	25
学術交流協定締結校との交流状況(受け入れ)	26
学術交流協定締結校との交流状況(派遣)	27
ブルネイ・ダルサラーム大学との学術交流10周年記念式典を開催	28
外国人研究者等の受け入れ状況	29
平成25年度国際学会・シンポジウム開催状況	31
日本学術振興会「二国間交流事業(オープンパートナーシップ共同研究)」 によるブルネイ・ダルサラーム国と日本国における糖尿病及び肥満の 比較研究を通じた国際貢献活動	32
<b>【留学生センターに関わる報告】</b>	
日本語教育カリキュラム等の報告	33
相談事業の報告	38
全学共通科目「Study Abroad」授業の報告	41
全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」 (タイにおける研修)の実施	42
「トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム(地域人材コース)」 への参画	44
海外語学研修プログラム(韓国語)の報告	45
第20回日本語語学研修プログラム報告	46
2014年度留学生センター留学生の受け入れ	50
各部局主催の短期受入プログラムにおける日本語授業の報告	54
留学生対象各種進学説明会	54
課外教育行事	56
交流活動および地域住民との連携の報告	57
就職支援プログラム	60
<b>【資料】</b>	
香川大学インターナショナルオフィス規則	64
香川大学インターナショナルオフィス会議規程	67
香川大学国際研究支援センター規程	69
香川大学留学生センター規程	71
インターナショナルオフィス教職員一覧	73



# 巻 頭 言

インターナショナルオフィス長 徳 田 雅 明

平成21年4月に発足した、香川大学インターナショナルオフィス（Kagawa University International Office：KUIO）は、留学生センターと国際研究支援センターからなり、留学生の受け入れや日本人学生の派遣の推進と、共同研究推進への協力やシンポジウムの開催など研究交流の推進に関わる業務を担当しています。

今や日本全体がグローバル化をキーワードとして、世界を舞台に活動することを目指しています。国立大学においても、世界に通用する教育を実践し、世界を舞台として活躍できる人材、世界観を持って地域で活躍できる人材の育成が求められています。また世界をリードする研究を発信することも重要です。

香川大学では平成25年に、平成35年までに留学生受け入れ400人、日本人学生海外派遣100人を目指す「4アンド1プラン」を立ち上げています。この実践のために、以下のように香川大学の国際戦略基本方針を立てています。

～ 地域との連携を基盤に、地域に根ざした国際化を推進 ～

## 1) 地域に根ざした国際化

- ◆大学の持つ国際化に関する知識・経験やネットワークを地域と共有
- ◆地域の様々な国際交流活動との連携
- ◆留学生が地域に入り込めるプログラム作り

## 2) 国際化のための教育・環境整備

- ◆海外交流拠点のネットワークの整備
- ◆新しい教育プログラムの開発
- ◆多様な言語やライフスタイルを持つ留学生・研究者と日本人学生とで「キャンパスの国際化」を推進
- ◆海外留学や国際ボランティアなどの活動を積極的に支援

## 3) 世界が魅力を感じる国際的通用性のある大学

- ◆アジア・太平洋諸国等から優れた留学生・研究者の人材育成・交流
- ◆香川大学の卓越した研究の戦略的世界展開
- ◆世界を舞台とする社会貢献やキャリアデザイン

KUIOの平成26（2014）年度の活動は、こうした方針の元に展開されています。是非ご一読いただきご理解いただければ幸いです。また今後ともKUIOの活動にご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

# 香川大学 国際化の基本方針と重点戦略課題

～地域との連携を基盤に、地域に根ざした国際化を推進～ 平成23年1月31日役員会審議承認

## 基本方針

### ○地域に根ざした国際化

- 社会・経済のグローバル化や地球規模の課題に対応し、アジア・太平洋諸国等をはじめ、広く国際社会に貢献できる分野を重点に、海外の大学・研究機関等との学術・研究交流を促進する。
- 大学の持つ国際化に関する知識・経験やネットワークを地域と共有し、地域の行政、企業、住民等の国際化へのニーズに応える。
- 人と人とのつながりを基本に、地域の様々な国際交流活動との連携を深め、地域の国際化に貢献する。

### ○国際的通用性を備えた人材の育成

- 世界で活躍できる国際性豊かなグローバル人材を育成するとともに、アジア・太平洋諸国等から優れた留学生・研究者を受け入れ、相互の人材育成・交流を促す、双方向のグローバル教育を実践する。
- 世界を舞台とする社会貢献やキャリアデザインにつながるグローバルな学生交流の機会を提供する「世界の若者に開かれた大学」を目指す。
- 海外留学や国際ボランティアなど、国際的な視野を拡げ、経験を豊かにする学生の活動を積極的に支援する。

### ○国際化のための環境整備

- 海外の大学等との学生・研究者の相互派遣の拡大に向け、海外交流拠点のネットワーク整備を進めるとともに、教職員や学生による国際的な研究・交流活動を積極的に支援する。
- 国際的な学術交流の促進に向け、研究環境のより一層の充実・強化を図るとともに、留学生の生活面を含めた教育環境の整備を地域の支援・協力を得ながら進める。
- 多様な言語やライフスタイルを持つ海外からの留学生・研究者と本学学生・教職員との自由闊達な交流を促す「キャンパスの国際化」を推進する。



## 重点戦略課題

- 海外の大学・研究機関等との間で重点化すべき学術・研究交流分野の抽出並びに情報発信
  - ・各学部における研究成果や研究テーマの整理・データベース化、国際的な学術交流ニーズ、国際社会への貢献可能性などを踏まえ、重点分野を抽出し、ターゲットとすべき大学・研究者等に向けて情報発信
- 地域を交えた国際交流活動などによる地域の国際化への貢献
  - ・地域の自治体や企業等の交流ニーズを踏まえ、協定大学をはじめ、相互交流を促進する相手国・大学等を重点化するとともに、地域を交えた国際交流活動などを通じ、地域の国際化に貢献
- グローバル人材の育成に向けたプログラム化
  - ①グローバル人材に求められる能力要素を踏まえて教育プログラムを見直し、各学部・大学院カリキュラムに反映  
(例：英語による教養・専門科目、ディベートなどの必修化、各年次・卒業までに到達する語学力の目標水準を能力に応じて設定し、着実に達成)
  - ②協定大学とのネットワークを活かした多言語プログラムや多様な留学コースを設置し、単位化するなどにより、学生の国際的視野を早期に拡大
  - ③アジア・太平洋諸国等から優秀な留学生や研究者を受け入れ、本学の学生との一体的な教育や、研究者間相互の学術交流を促す特色あるコースを設置し、大学のブランド化を促進
- 海外交流拠点のネットワークを効果的に整備するため、協定大学を重点対象として、交流内容や諸条件を打診・調整
- 留学生・外国人研究者のニーズや視点に立った支援の仕組みを整備するとともに、「キャンパスの国際化」を実現
  - ①留学生・外国人研究者のキャリア形成と地域社会の国際化ニーズをマッチングする仕組みを、地域の行政や企業等の支援・協力を得ながら構築
  - ②多言語による情報提供のシステム化や、美しく安全で快適なキャンパスを目指した点検・整備



## 4 & 1 プラン（「留学生400人の受け入れ・日本人学生100人の留学派遣」に向けての取組）進捗状況の報告

インターナショナルオフィス ロン リム

2013年度に、学長提唱の「4 & 1」プランは、10年後、留学生400人の受け入れと日本人学生100人の派遣を目的とする取組みであります。実現への道として、プロジェクトチームを立ち上げて、様々な課題と解決法を検討することになりました。

初年度の2013年に、6回のプロジェクトチームの会議を開催しました。2年目の2014年にも、同じく6回のプロジェクトチームの会議を開催しました。それぞれの会議の日程、会場および検討した議題は下記の通りでした。

### ○第7回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時 平成26年4月8日(火)10:30~12:00

場所 本部管理棟3階 第1会議室

議題

1. 官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN日本代表プログラム～の申請について
2. グローバル人材育成の取組～アクション・プランの提案～について
3. 留学生宿舎について

### ○第8回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時 平成26年6月30日(月)10:30~12:00

場所 研究交流棟5階 研究者交流スペース

議題

1. 本学のグローバル人材育成について
2. トビタテ！留学JAPAN現地版について
3. ラオス日本センターと香川大学連携ボランティア構想について
4. 留年せずに卒業できるカリキュラムの再編について

### ○第9回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時 平成26年9月29日(月)13:00~14:30

場所 研究交流棟6階 第3講義室

議題

1. 本学のグローバル人材育成について
2. 留年せずに卒業できるカリキュラムの再編について

○第10回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時 平成26年10月30日(木)10:30~12:00

場所 本部管理棟3階第1会議室

議題

1. 本学のグローバル人材育成について (継続)
2. 留年せずに卒業できるカリキュラムの再編について (継続)
3. 第3期中期目標・中期計画について

○第11回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時 平成26年11月26日(水)9:00~10:20

場所 研究交流棟5階 研究者交流スペース

議題

1. 第3期中期目標・中期計画について (継続)

○第12回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時 平成27年1月29日(木)10:30~12:00

場所 研究交流棟5階 研究者交流スペース

議題

1. 留学生を増やすための方策について

以上

## 学術交流協定一覧

(2015年3月31日現在)

### ●大学間協定〔16カ国・地域, 53機関〕

機関名	国・地域名	大学間協定締結年月日	実施細則等締結部局
カセサート大学	タイ王国	1988年8月25日 再締結(1999年1月20日)	農学部、大学院農学研究科
チェンマイ大学	タイ王国	1990年4月24日	農学部、大学院農学研究科 工学部、大学院工学研究科 教育学部 医学部、大学院医学系研究科 医学部看護学科、大学院医学系研究科看護学専攻
ルイビル大学	アメリカ合衆国	1997年9月2日	法学部、大学院法学研究科
サポア・モンブラン大学	フランス共和国	2000年3月24日	工学部、大学院工学研究科
南京農業大学	中華人民共和国	2001年7月4日	農学部、大学院農学研究科
ミュンヘン工科大学	ドイツ連邦共和国	2002年2月13日	工学部、大学院工学研究科
メチヨー大学	タイ王国	2002年3月7日	農学部、大学院農学研究科
国立政治大学	台湾	2002年3月19日	法学部、大学院法学研究科
ラインマイン大学	ドイツ連邦共和国	2002年9月23日	経済学部、大学院経済学研究科
コロラド州立大学	アメリカ合衆国	2002年10月8日	-
韓国海洋大学	大韓民国	2002年12月18日	工学部、大学院工学研究科
上海大学	中華人民共和国	2003年9月1日	経済学部、大学院経済学研究科
ハルビン工程大学	中華人民共和国	2005年2月23日	工学部、大学院工学研究科 大学院地域マネジメント研究科
大邱大学	大韓民国	2005年5月17日	経済学部
カデイス大学	スペイン	2006年1月31日	農学部、大学院農学研究科
南ソウル大学	大韓民国	2006年3月7日	工学部、大学院工学研究科 経済学部
中国海洋大学	中華人民共和国	2006年12月19日	法学部、大学院法学研究科
アアルト大学化学技術学部	フィンランド共和国	2007年3月13日	農学部、大学院農学研究科
真理大学	台湾	2007年6月11日	経済学部
西北大学	中華人民共和国	2007年10月17日	経済学部
南ボヘミア大学	チェコ共和国	2008年11月12日	教育学部
ハンバット大学	大韓民国	2008年11月14日	工学部、大学院工学研究科
北京工業大学	中華人民共和国	2008年12月11日	-
電子科技大学	中華人民共和国	2009年6月1日	工学部、大学院工学研究科
天津農学院	中華人民共和国	2009年6月4日	農学部、大学院農学研究科
フランシュ・コンテ大学	フランス共和国	2009年7月24日	工学部、大学院工学研究科
ブルネイ・ダルサラーム大学	ブルネイ・ダルサラーム国	2009年11月8日	-
チュラロンコン大学	タイ王国	2010年2月1日	-
シェレバングラ農科大学	バングラデシュ人民共和国	2010年5月10日	農学部、大学院農学研究科
コンピエーネ技術大学	フランス共和国	2010年7月8日	工学部、大学院工学研究科
トリブバン大学	ネパール連邦民主共和国	2010年11月2日	-
ムルシア大学	スペイン	2010年12月9日	-
バッタンバン大学	カンボジア王国	2010年12月9日	農学部、大学院農学研究科
王立農業大学	カンボジア王国	2010年12月13日	農学部、大学院農学研究科
カリフォルニア大学デービス校 カリフォルニア大学理事會	アメリカ合衆国	2011年2月1日	-
誠信女子大学	大韓民国	2011年2月21日	-
セントピーターズバーグ大学	アメリカ合衆国	2011年2月28日	-
リモージュ大学	フランス共和国	2011年3月14日	工学部、大学院工学研究科
北京外国語大学	中華人民共和国	2011年3月29日	-
武漢理工大	中華人民共和国	2011年5月30日	工学部、大学院工学研究科
河南農業大学	中華人民共和国	2011年8月15日	農学部、大学院農学研究科
長春理工大	中華人民共和国	2012年1月16日	工学部、大学院工学研究科
浙江工商大学	中華人民共和国	2012年5月7日	農学部、大学院農学研究科
天津理工大	中華人民共和国	2012年10月25日	工学部、大学院工学研究科
カリフォルニア州立大学フラトン校	アメリカ合衆国	2012年11月9日	-
パリ電子電気工学技術高等学院	フランス共和国	2012年11月19日	工学部、大学院工学研究科
ガジャマダ大学	インドネシア共和国	2013年1月31日	-
ディポネゴロ大学	インドネシア共和国	2013年2月4日	農学部、大学院農学研究科
州立ロンドンリーナ大学	ブラジル連邦共和国	2013年3月11日	農学部、大学院農学研究科
国立嘉義大学	台湾	2013年4月25日	-
高等機械大学院大学	フランス共和国	2013年5月24日	工学部、大学院工学研究科
ガイゼンハイム大学	ドイツ連邦共和国	2013年7月15日	農学部、大学院農学研究科
第四軍医大学	中華人民共和国	2014年5月27日	-

●部局間協定〔14カ国・地域、25機関〕

部局名	機関名	国・地域名	締結年月日
教育学部	清州大学人文学部	大韓民国	2001年7月9日
教育学部	クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学	ニュージーランド	2002年1月23日
教育学部、大学院教育学研究科	江西師範大学国際教育学院	中華人民共和国	2005年2月25日
法学部、大学院法学研究科	上海社会科学院法学研究所	中華人民共和国	1996年9月2日
法学部、大学院法学研究科	華東政法法律大学	中華人民共和国	1996年9月5日
経済学部、大学院経済学研究科	ボン＝ライン＝ズィーク大学経済学部	ドイツ連邦共和国	2000年12月15日
医学部	カルガリ大学医学部	カナダ	1989年7月31日
医学部	中国医科大学	中華人民共和国	1997年8月28日
医学部	河北医科大学	中華人民共和国	2001年11月27日
医学部	ブルネイ・ダルサラーム国保健省	ブルネイ・ダルサラーム国	2009年12月5日
工学部、大学院工学研究科	ブリティッシュコロンビア大学応用科学部	カナダ	2001年7月31日
工学部、大学院工学研究科	ボン＝ライン＝ズィーク大学	ドイツ連邦共和国	2002年2月12日
工学部、大学院工学研究科	国立高等精密機械大学院大学	フランス共和国	2009年1月28日
工学部、大学院工学研究科	トレド大学	アメリカ合衆国	2009年3月30日
工学部、大学院工学研究科	ラップランド応用科学大学	フィンランド共和国	2009年6月1日
工学部、大学院工学研究科	漢陽大学工学部第四群	大韓民国	2010年4月14日
工学部、大学院工学研究科	ハルムスタッド大学情報科学部	スウェーデン王国	2011年4月18日
工学部、大学院工学研究科	北京師範大学化学学院	中華人民共和国	2012年3月31日
工学部、大学院工学研究科	北京理工大学生命学院	中華人民共和国	2012年10月24日
農学部、大学院農学研究科	ダッカ大学生物科学部	バングラデシュ人民共和国	1998年12月15日
農学部、大学院農学研究科	ミシガン州立大学農学・自然資源学部	アメリカ合衆国	1999年3月22日
農学部、大学院農学研究科	ボゴール農業大学農学部、大学院研究科	インドネシア共和国	2000年6月13日
農学部、大学院農学研究科	西オーストラリア大学自然科学・農学部	オーストラリア連邦	2002年3月28日
農学部、大学院農学研究科	ブルゴーニュ大学アグロスツップ校	フランス共和国	2010年6月1日
大学院地域マネジメント研究科	ナポリ フェデリコ2世大学・農学部	イタリア共和国	2015年3月13日

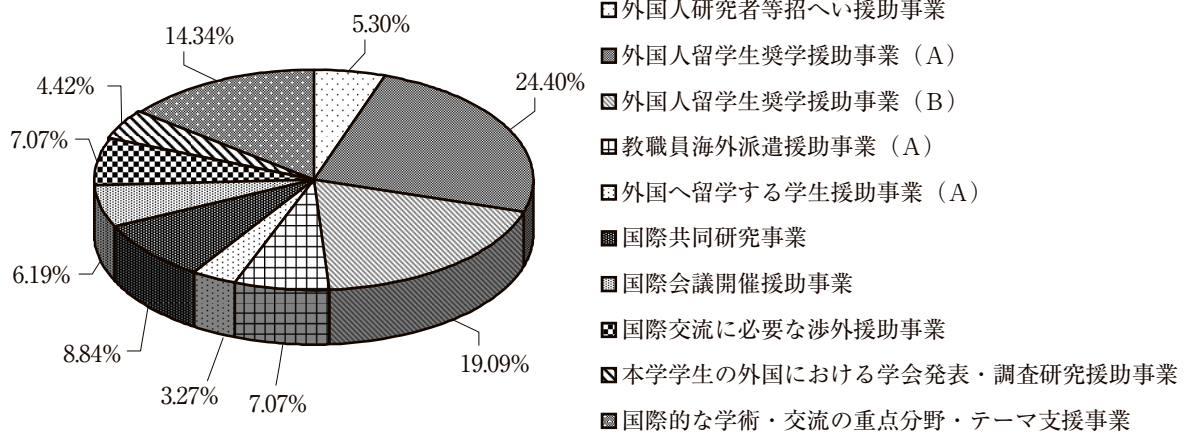
●連携協力協定〔3件〕

協定	連携協力機関	国・地域名	締結年月日
国際メカトロニクス研究教育機構に関する一般協定	サボア・モンブラン大学、国立高等精密機械大学院大学、フランシュ・コンテ大学、電気通信大学、東京電機大学、首都大学東京、産業技術大学院大学、高等機械大学院大学、リモージュ大学、コンピエーニュ工科大学、三重大学	フランス共和国 日本	2009年1月30日
地球ディベロプメントサイエンス国際コンソーシアムの発展に関する一般協定	グラム・バンガラ	バングラデシュ人民共和国	2010年2月16日 再締結 (2015年2月10日)
熱帯農業に関するSUIJI (Six University Initiative Japan Indonesia) コンソーシアム協定	ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学、愛媛大学、高知大学	インドネシア 日本	2011年3月16日

## 平成 26 年度香川大学国際交流資金事業 実施状況

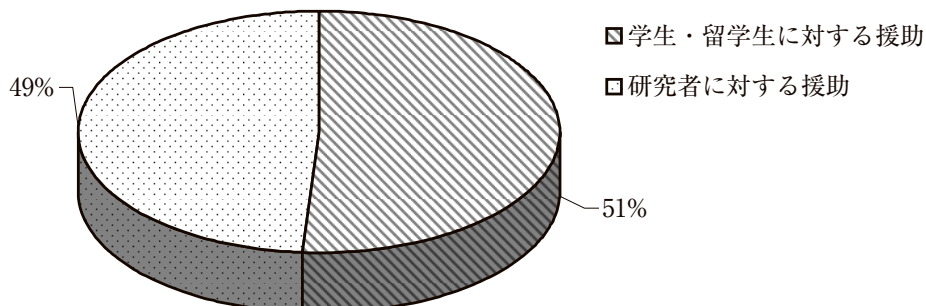
### 各事業実施割合

事業名	実施額 (千円)	事業全体に占める割合
外国人研究者等招へい援助事業	300	5.30%
外国人留学生奨学援助事業 (A)	1,380	24.40%
外国人留学生奨学援助事業 (B)	1,080	19.09%
教職員海外派遣援助事業 (A)	400	7.07%
外国へ留学する学生援助事業 (A)	185	3.27%
国際共同研究事業	500	8.84%
国際会議開催援助事業	350	6.19%
国際交流に必要な渉外援助事業	400	7.07%
本学学生の外国における学会発表・調査研究援助事業	250	4.42%
国際的な学術・交流の重点分野・テーマ支援事業	811	14.34%
計	5,656	100.00%



### 目的別実施割合

事業	実施額 (千円)	事業全体に占める割合
学生・留学生に対する援助	2,895	51%
研究者に対する援助	2,761	49%
計	5,656	100%





## 平成 26 年度インターナショナルオフィス年間行事

月 日	行 事
4月3日(木)	チューター・サポーターガイダンス
4月5日(土)	春期新入留学生ガイダンス・歓迎会（情報交換会）
4月7日(月)、8日(火)	第2回官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム説明会
4月8日(火)	第7回4&1プロジェクトチーム会議
4月9日(水)	奨学金ガイダンス
4月16日(水)	協定大学での留学・研修学内説明会
4月16日(水)・23日(水)	JICA青年海外協力隊&短期ボランティア学内説明会
4月26日(土)	本学経済学部とチュンマイ大学経済学部との学術交流協定に関する覚書締結
5月16日(金)	香川県留学生等国際交流連絡協議会運営委員会
5月27日(火)	本学と第四軍医大学との学術交流協定締結、本学と第四軍医大学の交流に関する実施細則
5月30日(金)	ホームビジット第1期ガイダンス
6月2日(月)	進学相談会（岡山）
6月5日(木)	国際研究支援センター研究会シリーズ平成26年度第1回研究会
6月20日(金)	ホームビジット第1期対面式
6月21日(土)	防災訓練（花園小学校）
6月23日(月)	香川県留学生等国際交流連絡協議会総会
6月23日(月) ～7月4日(金)	第20回日本語語学研修プログラム（2W）
6月28日(土)	日本語学校教員対象留学フォーラム
6月29日(日)	ホームビジット第1日目
6月30日(月)	第8回4&1プロジェクトチーム会議
7月6日(日)	日帰り旅行（直島）(KUFSAとICES主催)
7月13日(日)	ホームビジット第2日目
7月13日(日)	外国人学生のための進学説明会
7月15日(火)	外国人留学生進学フェア
7月16日(水)	外国人留学生進学フェア
7月16日(水)	海外渡航者、教職員向け危機監理セミナー
7月28日(月)	本学工学部及び大学工学研究科とラップランド応用科学大学との学術交流協定、学生交流プログラムに関する実施細則及びインターンシッププログラムに関する協定
8月1日(金)	留学生採用支援セミナー&外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談会
8月2日(土)	花園寮交流会流しそうめん 進学相談会（穴吹ビジネスカレッジ日本語学科）
8月19日(火)	ブルネイ・ダルサラーム大学との学術交流10周年記念式典
8月28日(木)	進学相談会（大阪）
9月2日(火)	本学教育学部及び大学院教育学研究科と江西師範大学国際教育学院との学術交流協定書、学術交流協定書に基づく学生の交流に関する実施細則及び学術交流協定に関する実施細則（再締結）
9月4日(木)	進学相談会（大阪）
9月10日(水)～12日(金)	第5回香川大学・チェンマイ大学合同シンポジウム
9月26日(金)	平成26年度第1回外国人留学生課外教育行事
9月29日(月)	第9回4&1プロジェクトチーム会議
9月30日(火)	チューター・サポーターガイダンス
10月5日(日)	秋期新入留学生ガイダンス、情報交換会
10月22日(水)	進学相談会（高松）
10月	秋期日本語教育コース・短期日本語プログラム・さぬきプログラム開講式

月 日	行 事
10月30日(木)	第10回4 & 1プロジェクトチーム会議
10月31日(金)	留学生就職活動準備セミナー
10月27日(月)～10月30日(木)、 12月1日(月)～12月5日(金)	インターナショナルウィーク1
10月27日(月)	1) フランセ留学日本縦断プロモーションツアー2014
10月30日(木)	2) 日仏自治体首長と学生との交流会
10月1日(水)～12月5日(金)	3) パネル展示
10月23日(木)	4) 農学部による海外留学ガイダンス等
12月3日(水)	5) 海外留学フェア
12月5日(金)	6) 学長主催外国人留学生交歓会
11月7日(金)	ホームビジット第2期ガイダンス
11月15日(土)・16日(日)	日本留学フェア(ベトナム)
11月21日(金)	留学生採用支援セミナー&交流会
11月26日(水)	第11回4 & 1プロジェクトチーム会議
11月28日(金)	ホームビジット第2期対面式
11月29日(土)	平成26年度第2回課外教育行事
12月7日(日)	ホームビジット第1日目
12月10日(水)	留学生活用セミナー&交流会
12月14日(日)	ホームビジット第2日目
1月21日(水)	企業見学会(香川県留学生等国際交流連絡協議会主催)
1月23日(金)	平成26年度グローバルユースリーダー育成事業
1月24日(土)	外国人社員研修会
1月26日(月)	留学生のための内定者研修
1月29日(木)	第12回4 & 1プロジェクトチーム会議
2月17日(火)	海外渡航者、教職員向け危機監理セミナー
2月20日(金)	外国人留学生及びチューター等意見交換・反省会
2月20日(金)	秋期日本語研修コース及びさぬきプログラム修了式

## 2014 年度学長等表敬訪問

- 5月26日 コロラド州立大学（アメリカ）  
学生3名及び教員1名が本学インターナショナルオフィス長を表敬訪問  
3名の学生は、本学教育学部において「アジア・アメリカ異文化交流短期受入プログラム」に参加。本学とコロラド州立大学は2002年に学術交流協定を締結後、本学との交流が継続的に行われている。
- 6月16日 エッカード大学（アメリカ）  
学生7名及び教員2名が本学インターナショナルオフィス長を表敬訪問  
エッカード大学は、本学の所在する高松市と姉妹都市提携を結んでいるセントピーターズバーグ市（アメリカ・フロリダ州）にある大学。7名の学生は教育学部の「高松プログラム」に5週間参加。
- 6月23日 日本語語学研修プログラム研修生（韓国、台湾）  
本学留学生センター主催「第20回日本語語学研修プログラム」研修生が本学インターナショナルオフィス長を表敬訪問  
韓国・清州大学の学生3名、台湾・輔仁大学の学生5名の計8名の学生が参加。
- 7月16日 さくらサイエンスプラン事業招へい者（中国、ベトナム、タイ、インドネシア）  
独立行政法人科学技術振興機構の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」に採択され、招へいされた外国人学生等8名が本学インターナショナルオフィス長を表敬訪問  
浙江工商大学（中国）、ハノイ工科大学（ベトナム）、アサンプシオン大学、カセサート大学、シラパコン大学（タイ王国）、北スマトラ大学（インドネシア）で食品科学を専攻している学生、研究院、講師が20日間、本学農学部プログラムに参加。
- 8月19日 ショートプログラムの学生（タイ王国、ベトナム、インドネシア、中国、アメリカ、ブラジル、トルコ、カンボジア）  
本学農学部でショートステイする外国人学生24名が本学インターナショナル副オフィス長を表敬訪問  
本学の協定校等から参加した学生であり、約5週間、本学農学部の「食品の安全・機能解析教育に関する東南アジア等の大学間体験学習型プログラム」や食品工場でのインターンシップに参加。



## 平成 26 年度香川大学インターナショナルウィークの報告

インターナショナルオフィス 正 楽 藍

平成26年10月27日(月)～30日(木)と、12月1日(月)～5日(金)の約2週間、本学における国際交流活動を盛り上げ、インターナショナルオフィス及び各部局の取り組みを広く周知する機会を設けるため、インターナショナルウィークを開催した。本ウィークでは、学生を主体としたイベントやパネル展示などを実施し、日本人学生の海外留学を促進することを目的とする。

インターナショナルウィークは平成24年度から開始したもので、それまでは個別に開催していた海外留学フェアをはじめとする国際交流促進に係る行事などを一定期間に集約して開催するものである。

23日(木)は、農学部海外留学ガイダンスを実施し、農学部独自の留学プログラムの他、農学部主管の学術交流協定校への留学などについて紹介した。

27日(月)は、Campus France による「フランス留学 日本縦断プロモーションツアー2014」を開催し、フランス留学を考えている本学学生向けの留学説明会を行った。

30日(木)は、第4回日仏自治体交流会議の一環で、来日したフランス自治体首長と本学学生との交流会を開催した。日本の都市と姉妹都市を締結しているフランスの都市からフランス自治体関係者約50名と本学学生・教職員及び一般から約80名が参加し、フランスの文化や日本の文化、芸術、地方自治などについて活発に議論を行った。

本ウィーク後半の12月の週は、12月3日(木)、インターナショナルオフィス主催「海外留学フェア」を開催した。今年度は海外留学の就職への活かし方をテーマとし、株式会社グロップ・人材開発部部長・磯野隆二氏を講師としてお招きした。留学先での自らの経験を振り返り、就職活動や社会へ出た後の活動へいかに活かしていくのか、企業などの人材育成担当者は学生時代の海外体験に何を期待しているのかなどについてご講演いただいた。

さらに、10月から12月の開催期間中、キャンパス内数カ所において、学術交流協定校や本学学生の海外留学の様子を紹介するパネル展示会を実施した。

日本人の海外留学者数が改善の兆しを見せているというニュースが聴かれる（平成27年12月現在）。本学でも、少しずつではあるが学生の海外留学へのまなざしに変化してきているように感じられる。この機運を逃さず、学生が海外留学に何を期待しているのか、大学で育成すべき人材と留学との関連性とは何か、社会（企業等）や地域は学生に何を求めているのかの把握に努めながら、本学の国際交流活動をこれまで以上に盛り上げていかなければならない。

## FD・SD ワークショップの実施

平成26年7月16日(水)及び平成27年2月17日(火)、講師に日本アイラック株式会社クライシスソリューション事業部部長山下寿人氏をお招きし、海外へ渡航する学生の指導教員及び事務担当者を対象とした「危機管理セミナー」を開催した。板野インターナショナルオフィス長の開会挨拶の後、山下氏より、引率中または日本待機中に海外で危機事象が発生した場合の行動や心構え、海外で発生しやすい事件や事故をいかに防ぐべきか、などについてご講演いただいた。

講演に引き続いての質疑応答では、具体的な保険の加入手続きや内容、有事が発生した際の注意事項等について、活発な意見交換がなされた。

## 平成 26 年度学長主催外国人留学生交歓会を開催

平成26年12月5日(金)、外国人留学生、教職員及びチューター等日本人学生と地域や国際交流団体の方々との親睦を深めるため、学長主催による外国人留学生交歓会をホテルパールガーデンにおいて開催し、約220名が参加した。

民族衣装を身にまとった教育学研究科のIvy Santiago Liwa（リワ）さん、経済研究科の劉文奇（リュウ ブンキ）さんの司会進行のもと、長尾学長の挨拶に続き、留学生代表の工学研究科博士前期2年 Patchara Yongdimitrapap（パッチャラ）さんの挨拶、板野インターナショナルオフィス長による乾杯の音頭で開始された。また、タイ、インドネシア、ベトナムからの留学生による歌とダンスが披露され、大いに盛り上がった。

最後にロン留学生センター長による挨拶で交歓会を締めくくった。これを機に本学の留学生達が、さらなる交流の輪を広げ、日本での留学生生活を充実したものにしてくれることを願う。

## 帰国留学生ネットワーク タイ支部総会開催について

平成27年3月7日(土)、バンコク市内の CHAOPHYA PARK HOTEL において、帰国留学生ネットワークタイ支部第2回総会を開催した。タイ支部は、本学を卒業、修了した帰国留学生相互の親睦・情報交換を図るとともに、本学の国際交流の推進に寄与することを目的として、平成24年度に設立された。

当日は、本学の教職員5名を含む多くの参加者があり、大いに盛り上がり、本学との交流を深めることができた。

本学は、タイ王国からの留学生が多く、今回の総会の開催で、そのネットワークの強さを実感するとともに、今後このような元留学生と連携した国際化の推進や活発な交流活動が期待される。

今回は、バンコク市内の大学からの出席がほとんどであったが、次回は、チェンマイでの開催を望む声も聞かれた。

## 香川大学グローバル人材育成事業による英語ネイティブ教員の採用

インターナショナルオフィス 細田 尚美

インターナショナルオフィスは、香川大学グローバル人材育成事業として非常勤教員（通称：英語ネイティブ教員）5名を配置した。5名の教員はそれぞれ、教育学部、経済学部、医学部、工学部、農学部に配置され、各学部における学生の語学・学術能力の向上のための指導や助言、学生・教職員の国際交流の推進を行うほか、大学全体の国際化にかかわる活動に従事する。本事業は、「学長のリーダーシップの発揮」を目的として、文部科学省から措置（期間：平成26年10月1日～平成27年3月31日）されたもので、本事業を通じ、香川大学が目指す国際的に通用性のある教育を拡充している。

### 香川大学グローバル人材育成事業非常勤教員（平成26年度）

デイビス, エリック・ジェームズ (Davis, Erik James)

ニワッティサイウォン・セクシリ (Seksiri Niwattisaiwong)

モストファ・ルビ (Mostofa, Ruby)

マリン・ジェイソン (Murrin, Jason)

セイル・ウィリアム・チェト (Seil, William Chet)

## 民間宿舎借り上げ事業

慢性的な留学生宿舎の不足を解消するため、平成25年度より香川大学花園寮、コーポ西町南の2棟の民間宿舎の借り上げを開始し、2年目の運営となった。

香川大学花園寮では、平成26年6月9日(月)に入居学生同士の交流も兼ね、全員で敷地内の草抜きと清掃を行った。

また、平成26年6月21日(土)には、花園地区で実施された第6回自主防災訓練に入居学生12名、医学部学生4名、教職員7名が参加し、地域住民とともに花園小学校へ避難した。その後、ブロックごとに分かれて、花園小学校児童、地域住民とともに、バケツリレーや土のう作りなどの防災訓練及び津波訓練に参加した。有事に備える体験地域住民と交流しながら行うことができ、留学生にとって貴重な体験となった。医学部学生4名は、防災訓練の心肺蘇生ブロックで、心肺蘇生の方法やAEDの使用方法について、ダミー人形を使って地域住民に指導し実践練習を行った。また、防災訓練終了後は、花園小学校教職員を対象に、「小児BLSのアルゴリズム」と題して、児童の心肺蘇生について講演を行った。

さらに平成26年8月2日(土)には、学生と寮近隣の地域の方々との交流を図るため、また、日本文化を体験することを目的として、「花園寮交流会」(そうめん流し)を開催した。学生らは、そうめん流しの竹を設置したり、稲荷ずしを作ったりして、地域の方々をお迎えする準備に励んだ。準備が整ったところで学生代表が地域の方々をご案内し、花園町自治会長様を始めとする地域の方々にご参加いただいた。始終和やかな雰囲気でも地域の方々や学生同士の交流が深まった。

## 大学の世界展開力強化事業について（SUIJI）

SUIJI（Six University Initiative Japan-Indonesia）は、愛媛大学、香川大学、高知大学とインドネシアのガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学の6大学が、平成23年3月に設立した熱帯農業に関して連携して共同研究・共同教育を進めていくためのコンソーシアムで、平成24年度には、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」として「日本とインドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム（SUIJI-SLP）」が採択された。

平成26年度の活動は、8月19日(火)～9月7日(日)に「日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム」として、インドネシア人学生39人、日本人学生71人が3週間にわたって、過疎化・高齢化の進む四国の農山漁村に共に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービスラーニング・プログラムを実施した。香川大学では香川県小豆島町で、インドネシア人学生7人、日本人学生10人が、地域課題の解決に取り組む地域貢献を通じて、未来社会の持続的な発展に貢献するサーバント・リーダーとしての素養を身につけるために学んだ。

平成26年9月13日(土)～9月15日(月)には、第4回SUIJIセミナーが、インドネシア、ハサヌディン大学において3日間開催され、香川大学からは、長尾学長、早川理事、片岡農学部長、ロン留学生センター長、加藤SUIJI推進室長およびSUIJI推進室員、大学院生らが参加した。第4回SUIJIセミナーは、「インドネシアと日本の高等教育ネットワークを通じた熱帯地域における持続可能な農業の推進」をテーマとし6大学の連携の下で、シンポジウム、学長フォーラム、学生フォーラム、ポスタープレゼンテーションに分かれ、教育研究成果の公表と大学間での情報交流が行われた。シンポジウム後にSUIJIジョイントディグリー・ドクター・プログラム（SUIJI-JDP-Dc）覚書に6大学の学長が署名をした。

海外サービスラーニングとしては、日本学生46人（香川大学生14人）、インドネシア学生63人が参加し平成27年2月23日(月)から約3週間にわたりインドネシアの西ジャワ州ボゴール県、中ジャワ州トゥガル県、ジョグジャカルタ特別州バントウル県及びグヌン・キドゥル県、南スラウェシ州マカッサル市スプルモンデ諸島とタナ・トラジャ県の5か所の農山漁村に共に滞在し、それぞれの地域の可能性の発見と、課題の発掘及び解決策を見出すことを目的とした地域貢献活動に取り組んだ。3月12日(木)にボゴール農業大学で成果発表セミナーを行い、日本人学生は3月16日(月)に帰国した。



## JICA との連携

インターナショナルオフィス 熊谷信広

### (背景)

独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）は、日本政府が実施する政府開発援助（ODA）の技術協力、有償資金協力（円借款）、無償資金協力及び青年海外協力隊などの海外ボランティアを担当する独立行政法人である。2004年国立大学法人がスタートし、自律的・自主的な環境の下での国立大学の活性化が進められた。その流れの一環として、2006年3月にJICA四国と四国地区国立大学との連携協力の推進に関する覚書が締結された。JICAが実施する国際協力のプログラムを各国立大学の状況に合わせて実施する内容である。2010年9月第58回四国国立大学協議会において、香川大学一井学長（当時）より当該覚書の再締結と一部現状に即した変更案の協議提案が可決され、JICA四国と香川大学を含む四国5国立大学との連携協力が2016年3月まで継続されることになった。

2010年から国立大学法人として第二期中期目標期間に国立大学を取り巻く環境の変化からグローバル化が明確に意識され始めた。

そして、2013年5月に教育再生実行会議第三次提言で、これからの大学教育等の在り方について、グローバル化に対応した教育環境づくりを進めることが国立大学改革の中心的な命題となった。

かかる状況下、香川大学は2013年12月JICAとの人事交流に関する覚書を締結し、2014年1月からインターナショナルオフィスに客員教授としてJICAから出向者が初代派遣された。

### (具体的な連携実施内容)

JICAとの連携は、現在、以下の業務が実施されている。

#### JICA出向者担当業務

- ① インターナショナルオフィス 客員教授 ⇒関係学部への国際協力講義
  - ◆全学共通授業科目「国際社会と日本・日本語」（3コマ）
  - ◆海外体験型異文化コミュニケーション講義担当（2コマ）
  - ◆留学生対象「さぬきプログラム（日本事情B）国際協力」（英語15コマ）
  - ◆工学部大学院生対象「国際・技術戦略論」（2コマ）
  - ◆医学部看護学科「国際看護学」講義担当（2コマ）
  - ◆経済学部「現代経済社会事情」講義（1コマ）
  - ◆アドバンスト・セミナー（2014年度）
  - ◆学生国際協力団体 TFT 自主講義担当講師
- ② 4 & 1 の国際展開と国際人材の育成 ⇒留学促進、留学生の増加
- ③ 開発協力関係一般 ⇒国際協力、国際開発及びJICA関連事項他

#### JICA制度を活用した海外派遣関係

- ① 海外に派遣した学生数：8名（内訳：農学部1名、経済学部4名、教育学部2名、工学部1名）



- ② 派遣国：8カ国（コートジボワール2名、ケニア1名、インドネシア1名、カンボジア1名、インド1名、他2名）
- ③ 海外に派遣した教職員3名（内訳：国際グループ職員1名、教員2名、派遣国：バングラデシュ1名、ラオス2名）
- ④ 採択したJICAプログラム：5プログラム
  - 1) グローバル人材育成プログラム（JICA インターンシップ・プログラム；コートジボワール）
  - 2) JICA 大学生国際協力フィールド・スタディ・プログラム（カンボジア、インドネシア）
  - 3) JICA パートナーシップセミナー（バングラデシュ）
  - 4) 「トビタテ、JAPAN」プログラム（JICA プログラム導入：コートジボワール）
  - 5) JICA ボランティア・プログラム（青年海外協力隊インド日本語教師）

#### JICA制度を活用した留学生（海外研修員）の研修実施関係

- ① JICA制度を活用した研修生（留学生）：32名（内訳：ラオス14名、ブラジル15名、メキシコ1名、パラグアイ1名、ドミニカ共和国1名）
- ② 導入したJICA研修コース：
  - 1) 日系研修「速習MBAコース」2回実施、日系さぬきコース（採択のみ）
  - 2) ラオス国別特設「コミュニティ・イニシアティブによる初等教育改善プロジェクト；インターナショナルオフィス実施。文教速報（平成27年6月26日付第8161号）紹介。
  - 3) 来年度日系研修「食の安全」研修コース（農学部）採択済。JICA「水分野」英語圏アフリカ村落給水プログラム国内研修拠点として来年度国内研修を本学で実施予定。
  - 4) ABEイニシアティブ第1バッチ（2014年度来日）第2バッチ（2015年度来日）

#### JICA制度を活用した海外調査、国際会議等

- ① 草の根技術協力（タイにおける妊産婦管理及び糖尿病のためのICT遠隔地医療支援プロジェクト：期間2年半） 経費：5983万円（提案額）
 

JICA制度（ファーストステップ～国際協力への道～）を活用した海外調査：ラオス2名。案件提案「ラオス国 農学分野からの地域協力における学生派遣ニーズの特定」採択。加藤尚農学部国際交流委員長（当時）と教員参加。
- ② 国際シンポジウム「アジア太平洋地域の水危機に立ち向かう」松本重行JICA国際協力専門員「アジアの水問題とJICAの取組」基調講演、香川でのJICA研修「アジア・アフリカ地域農家組織によるため池を利用した地域の水管理」取組・成果紹介。水プロジェクト・シンポジウムへのJICA地球環境部宮崎課長講演。
- ③ JICA四国「国際協力担当者のためのPCMを活用したプロジェクト運営基礎セミナー」教員1名受講。
- ④ 中小企業支援セミナー板野副学長（当時）参加。
- ⑤ 香川県青年海外協力隊を育てる会総会に長尾学長ご臨席。香川大学から40か国85名卒業生参加事例紹介。笥副学長（当時）参加、41か国87名実績報告。
- ⑥ 香川大学インターナショナルオフィスジャーナル第6号研究ノート掲載「New Public Managementの顧客視点から見たボランティアを触媒とした開発援助モデルの形成の必要性と可能性

の研究—JICAボランティアの事例—」

開発協力関係一般

- ① 地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）学内説明会2回実施及び個別説明会開催（工学部）
- ② 国際協力相談会（常時）でメール相談含め90名実施
- ③ 学術交流ブルネイ大学協定校及びブルネイ教育省一行訪問団受入
- ④ 水研究総合センター国際シンポジウム講演会実施運営役員
- ⑤ インターナショナルオフィスジャーナル第5号編集委員
- ⑥ 香川大学国際交流資金選考委員
- ⑦ バングラデシュ・プロジェクト実行委員会大学代表（香川県委嘱）
- ⑧ 香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題に基づく国際的な学術・研究交流の重点分野・テーマ進捗担当及び各種会議開催担当
- ⑨ 開発教育協会主催教材体験FESTAへ募集勧奨および学生参加と引率担当
- ⑩ 新たな海外留学支援制度（官民協働海外留学創出プロジェクト）参加促進
- ⑪ トビタテ留学JAPAN日本代表プログラム「地域人材コース」事業計画促進
- ⑫ グローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」国内受入促進・香川県留学生等国際交流連絡協議会主催「外国人留学生対象企業見学会」実施引率
- ⑬ JICAインターン説明会開催
- ⑭ 各種JICAボランティア関連応募相談及びJICAボランティア派遣実績紹介（ボード作成展示）
- ⑮ 行政における国際協力分野関係者と連携促進（香川県及び高松市国際交流協会）
- ⑯ 日系研修員受入事業実務担当・ラオス教育省研修員受入実務担当
- ⑰ アドバンスドセミナー講師担当
- ⑱ 学生国際協力団体サークル向け自主講義
- ⑲ グローバル人材育成一環の学生派遣JICA制度活用システム作り（大学連携プログラム構築）
- ⑳ UNGL（大学間連携共同教育推進事業：西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム）現地随行及び指導
- ㉑ 県立高松高校スーパーグローバルハイスクール事業に大学の国際協力との連携推進。

JICA から香川大学に支払した金額：8,921 千円

1. ラオス国別研修	3,254,400円
2. 日系研修	1,859,680円
3. ABEイニシアティブ第1陣（2014年度来日）	1,607,400円
4. ABEイニシアティブ第2陣（2015年度来日）	2,199,600円

JICA 香川大学関連支出：1億463万円（来年度分を含めて）

\*獲得に協力したものも含めている。

### (今後の方向性)

JICAには、大学の協力を得て実施する事業が数多く存在する。香川にはJICA拠点である四国支部を有する利点を活かし、JICAの制度を積極的に全教職員、学生が活用できるよう支部と一体になって、プログラムの周知徹底を図っていく。と共に、現在実施しているプログラムに数多くの教員学生に参加していただき、プログラムを体感してもらう。そして、対応可能なプログラムに一つでも多く応募し香川の地の利と経験を生かした各学部が協力できるプログラムの構築を目指す。具体的には、アフリカ英語圏村落給水関係の人材育成プログラムへの香川大学水プロジェクトメンバーの研修協力をはじめ日系人個別及び集団研修プログラム及び課題別研修の提案採択を目指す。また、国際協カスタディプログラム、JICAインターンへの継続的な学生派遣と青年海外協力隊への応募促進を図る。

インターナショナルオフィス

客員教授 熊谷信広

(JICAから出向：前JICA南アフリカ共和国事務所次長兼ボツワナ共和国支所長。開発学修士。ザンビア協力隊OB。元総合商社トーマン勤務。元桜美林大学専任講師。)

## 第5回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウムの開催

インターナショナルオフィス 細田 尚美

9月10日(水)~12日(金)、タイのチェンマイ大学(CMU)において、Healthy Aging and Sustainable Society(健康な高齢化社会と持続可能な社会)と題した第5回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウム2014が開催された。同シンポジウムには本学からは長尾学長を始め、教職員39名、学生39名が参加した。

シンポジウム1日目(10日)では、Niwes Nantachit(ニウエース ナンタチット)学長の挨拶、長尾学長の挨拶の後、藤井在チェンマイ総領事館総領事が祝辞を述べた。その後、5会場に分かれて、人文社会、経済・経営、医学・看護学、工学、農学の各セッション、ポスター発表が行われた。

シンポジウム2日目(11日)には、災害管理についてのパネルディスカッション、チェンマイ大学と共同で行う「JICA Project」についてのセッション及び今後の共同事業や次回のシンポジウムのあり方等について、議論が行われた。午後の学生セッション等では、「タイと日本経済における観光産業の重要性」について、両大学の学生が活発に議論した。今回のシンポジウムには、両大学から多数の学生が参加し、交流を深めた。教員だけでなく学生にとっても有意義な開催となった。

また3日目(12日)には、チェンマイ大学内外の企業や組織の活動を見学した。

次回は、2016年に香川大学において、第6回合同シンポジウムを開催することが決まっている。

### 【シンポジウム委員会メンバー】

- ・チェンマイ大学組織委員長：Assoc. Prof. Niwes Nantachit, M.D, チェンマイ大学学長
- ・香川大学組織委員長：長尾省吾香川大学長
- ・チェンマイ大学組織委員会責任者：Assoc. Prof. Dr. Sermkiat Jomjunyong チェンマイ大学副学長
- ・香川大学組織委員会責任者：高木由美子 教育学部教授

### ・セッション代表

#### Session 1 : Social Sciences and Humanities : Social Environment Studies for Sustainability

CMU : Lecturer Saranya Kongjit, Faculty of Humanities

KU : 教育学部 教授・高木由美子

#### Session 2 : Economics and Business : Social Economic and Business Studies for Sustainability

CMU : Dr. Narumon Kimpakorn, Faculty of Business Administration

KU : 経済学部 教授・ラナデ R. R.

#### Session 3 : Medicine and Nursing : Aging and Lifestyle Related Diseases

CMU : Associate Professor Prapan Jutavijitum, M.D, Faculty of Medicine

KU : 医学部 教授・徳田雅明

#### Session 4 : Engineering : Engineering Aspects for Sustainable Development

CMU : Assistant Professor Dr. Sansanee Ueapunwiriyaikul, Faculty of Engineering

KU : 工学部 教授・澤田秀之

#### Session 5 : Agriculture : Agriculture and Biotechnology

CMU : Assistant Professor Dr. Daruni Naphrom, Faculty of Agriculture

KU : 農学部 教授・加藤 尚

- ・プログラム担当：澤田秀之、細田尚美
- ・JICAプロジェクト・セッション担当：徳田雅明
- ・ラウンドテーブル担当：高木由美子
- ・学生セッション担当：ロン リム、ラナデ R. R.

#### 【プログラム】

##### 9月10日(水)

9 : 00 開会式

9 : 30~12 : 05 論文セッション1~5

10 : 30~10 : 45, 14 : 20~15 : 00 ポスターセッション

13 : 00~17 : 00 論文セッション1~5, ポスタープレゼンテーション

18 : 30~20 : 00 ウェルカム・レセプション

##### 9月11日(木)

9 : 00~10 : 30 / 9 : 45 パネルディスカッション、JICAプロジェクト・セッション

10 : 30~12 : 00 ラウンドテーブル、共同研究討議

13 : 00~16 : 00 ロイヤルプロジェクト見学、学生セッション

18 : 30~20 : 00 閉会式、ポスターセッション優秀者表彰

##### 9月12日(金)

9 : 00~11 : 00 フィールドトリップ (Thai Sakae Co.)

14 : 00~16 : 00 附属学校見学、高水準医療センター見学など

## チェンマイ大学内に香川大学連携オフィスを開設

インターナショナルオフィス 細田尚美

3月20日(金)、チェンマイ大学において、香川大学連携オフィスの開所式が行われた。香川大学側からロン・リム副インターナショナルオフィス長、徳田雅明医学部教授らが出席し、チェンマイ大学側からは Sermkiat Jomjunyong (セムキヤト・ジヨムジュンヨン) 副学長、Rome Chiranukrom (ローム・チラスクロム) 副学長、Nat Vorayos (ナット・ヴォラヨス) 工学部長らが参加した。チェンマイ大学は本学の海外教育研究拠点校の一つであり、全学的に活発な交流が行われている。香川大学連携オフィスは、香川大学の東南アジア地域の拠点として活用されることを目的に、チェンマイ大学工学部棟6階に設置された。

## 平成 26 年度国際研究支援センター研究会シリーズ（第 1 回）の開催

インターナショナルオフィス 細 田 尚 美

国際研究支援センターでは平成23年度から、香川大学における国際的な研究活動推進のための研究会シリーズを年に数回開催することとした。研究会は、国際的な研究を実施している／実施を希望している教員らの報告を聞き、参加者の間で活発な議論を展開するとともに、それぞれの研究の発展へとつなげることを目的としている。いずれの研究会も、複数キャンパスを遠隔会議システムでつないで実施し、部局間の研究交流の一端も担った。

○第 1 回「讃岐からの発信－持続的発展に寄与する水文化・環境構築を目指す国際共同研究」（平成26年 6 月 5 日(木)）

国際研究支援センター研究会シリーズ平成26年度第 1 回研究会「讃岐からの発信－持続的発展に寄与する水文化・環境構築を目指す国際共同研究」が幸町キャンパス研究交流棟 5 階研究者交流スペースで開催され、本学教職員及び学生等計31名が参加した。

研究会は、板野インターナショナルオフィス長の司会により行われ、教育学部・寺尾教授、工学部・石塚准教授、地域マジメント研究科・高木准教授、教育学部・村山教授の講演があった。

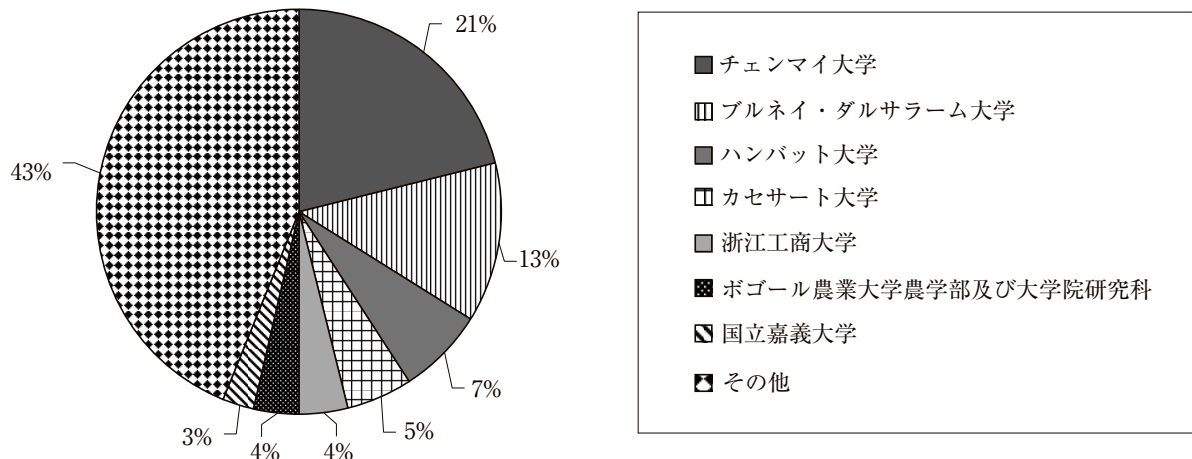
この研究会は、平成25年度に採択された香川大学の国際的な学術・交流の重点分野・テーマに関するもので、「地球ディベロプメントサイエンス国際コンソーシアム」や、新たな水文化・環境構築をめざすジオコミュニケーション学プロジェクトを基礎に展開している。

本研究プロジェクトは今後、インド工科大学等の国際研究機関との共同研究、エッカード大学との豊島を舞台とした国際環境教育プログラムや、南ボヘミア大学への学生派遣事業など、さらなる展開を進めることが示された。



## 学術交流協定締結校との交流状況（受け入れ）

### 受け入れ人数推移（協定校地域別）



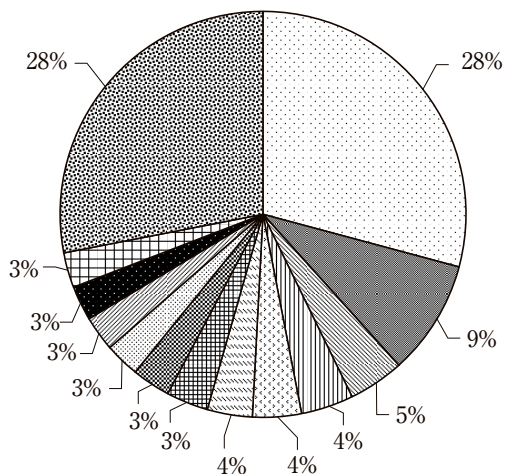
学術交流協定校からの受け入れ事業	件数
チェンマイ大学	48
ブルネイ・ダルサラーム大学	29
ハンバット大学	16
カセサート大学	12
浙江工商大学	9
ボゴール農業大学農学部及び大学院研究科	8
国立嘉義大学	6
メチヨー大学	5
コロラド州立大学	5
上海大学	5
ハルビン工程大学	5
真理大学	5
チュラロンコン大学	5
ガジャマダ大学	5
州立ロンドリーナ大学	5
サボア モンブラン大学	4
ラインマイン大学	4
誠信女子大学	4
ディボネゴロ大学	4
江西師範大学・国際教育学院	4

学術交流協定校からの受け入れ事業	件数
河北医科大学	4
南ボヘミア大学	3
電子科技大学	3
リモージュ大学	3
天津理工大学	3
中国海洋大学	2
西北大学	2
北京工業大学	2
トリブバン大学	2
カルフォルニア大学デービス校	2
カリフォルニア大学理事会	2
長春理工大学	2
クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学	2
北京理工大学生命学院	2
ブルゴーニュ大学アグロスツプ校	2
南京農業大学	1
国立政治大学	1
シェレバングラ農科大学	1
パットンバン大学	1
武漢理工大学	1
第四軍医大学	1



## 学術交流協定締結校との交流状況（派遣）

### 派遣人数推移（協定校地域別）



- チェンマイ大学
- ブルネイ・ダルサラーム大学
- ▨ ハルムスタッド大学情報科学部
- ▩ カセサート大学
- ▧ カリフォルニア州立大学フラトン校
- ▦ 真理大学
- ▤ チュラロンコン大学
- ▣ 天津理工大学
- ▢ 国立嘉義大学
- ボン＝ライン＝ズウィーク大学
- 北京理工大学生命学院
- ▧ ボゴール農業大学農学部及び大学院研究科
- ▦ その他

学術交流協定校への派遣事業	件数
チェンマイ大学	127
ブルネイ・ダルサラーム大学	40
ハルムスタッド大学情報科学部	20
カセサート大学	18
カリフォルニア州立大学フラトン校	17
真理大学	16
チュラロンコン大学	15
天津理工大学	13
国立嘉義大学	12
ボン＝ライン＝ズウィーク大学	12
北京理工大学生命学院	12
ボゴール農業大学農学部及び大学院研究科	12
浙江工商大学	11
ラインマン大学	10
西オーストラリア大学自然科学・農学部	10
南京農業大学	9
ガジャマダ大学	8
ハルビン工程大学	6
コロラド州立大学	5
ディボネゴロ大学	5
カルガリ大学医学部	5
第四軍医大学	4
サボア モンブラン大学	3
メチョー大学	3
南ボヘミア大学	3

学術交流協定校への派遣事業	件数
電子科技大学	3
長春理工大学	3
江西師範大学・国際教育学院	3
ルイビル大学	2
上海大学	2
西北大学	2
ハンバット大学	2
天津農学院	2
トリブバン大学	2
クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学	2
プリティッシュコロンビア大学応用科学部	2
トレド大学	2
北京師範大学化学学院	2
ミュンヘン工科大学	1
シェレバングラ農科大学	1
ムルシア大学	1
カルフォルニア大学デービス校カリフォルニア大学理事会	1
誠信女子大学	1
リモージュ大学	1
武漢理工大学	1
州立ロンドリーナ大学	1
ガイゼンハイム大学	1
ラップランド応用科学大学 (旧ロバニエミ応用科学大学)	1
漢陽大学工学部第四群	1
ダッカ大学生物科学部	1

## ブルネイ・ダルサラーム大学との学術交流 10 周年記念式典を開催

インターナショナルオフィス 細田 尚美

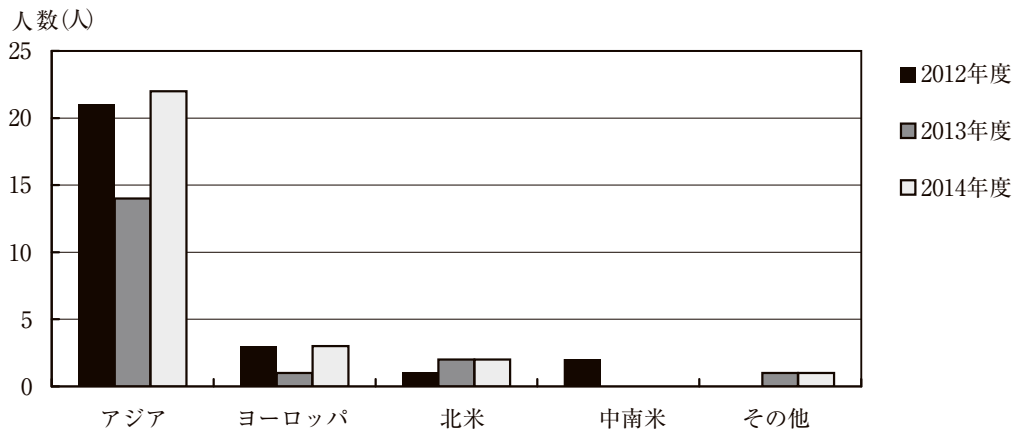
8月19日(火)、幸町キャンパス OLIVE SQUAREにおいて、本学とブルネイ・ダルサラーム大学(ブルネイ・ダルサラーム国)との学術交流10周年記念式典が開催された。

式典には、ブルネイ・ダルサラーム大学から、Yang Mulia Dato Paduka Dr. Haji Zulkarnain bin Haji Hanafi (ヤング ムーリア ダト パドゥカ ドクター ハジ ズルカナイン ビン ハジ ハナフィ) 学長、Dr. Joyce Teo Siew Yean (ドクター ジョイス テェオ シュー イェン) 副学長、Dr. Adi Idris (ドクター アディ イドリス) プログラム責任者、並びに本学の長尾学長や学内関係者の他、在日ブルネイ・ダルサラーム大使館、外務省、香川県などから合わせて約70名が出席した。本式典は、日本・ブルネイ友好30周年の記念行事のひとつとしても位置づけられた。

第1部の記念式典では、両大学学長の挨拶、来賓祝辞の後、協力文書への署名、記念品交換、記念パネルの除幕式が行われた。引き続き開催された第2部の記念フォーラムでは、これまでの交流の足跡や共同研究・教育プログラムについて紹介があり、ブルネイ・ダルサラーム大学に留学経験のある医学部生による発表なども行われた。

## 外国人研究者等の受け入れ状況

研究者出身地域（地域別）



### 【地域別】

(単位：人)

	アジア	ヨーロッパ	北米	中南米	その他	合計
2012年度	21	3	1	2	0	27
2013年度	14	1	2	0	1	18
2014年度	22	3	2	0	1	28

### 【国別】

アジア (単位：人)

国名	2012年度	2013年度	2014年度
インドネシア	3	0	2
タイ	5	1	3
中国	7	5	7
台湾	0	0	1
バングラデシュ	4	4	3
フィリピン	1	1	0
ベトナム	1	0	2
マレーシア	0	1	1
スリランカ	0	0	1
モンゴル	0	2	2

ヨーロッパ (単位：人)

国名	2012年度	2013年度	2014年度
フィンランド	1	0	0
ベルギー	1	1	2
イギリス	0	0	1
ルーマニア	1	0	0

北米 (単位：人)

国名	2012年度	2013年度	2014年度
アメリカ	1	2	2

中南米 (単位：人)

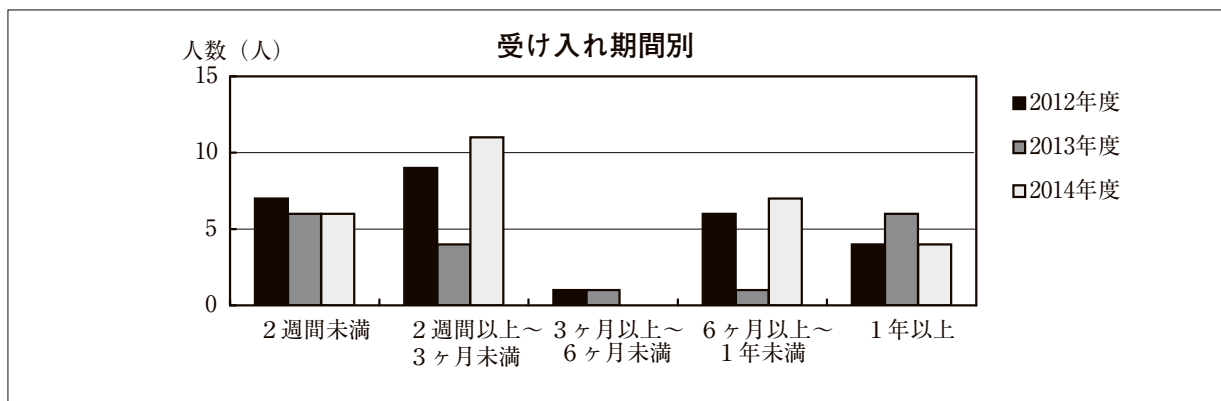
国名	2012年度	2013年度	2014年度
ブラジル	2	0	0

アフリカ (単位：人)

国名	2012年度	2013年度	2014年度
エジプト	0	0	1

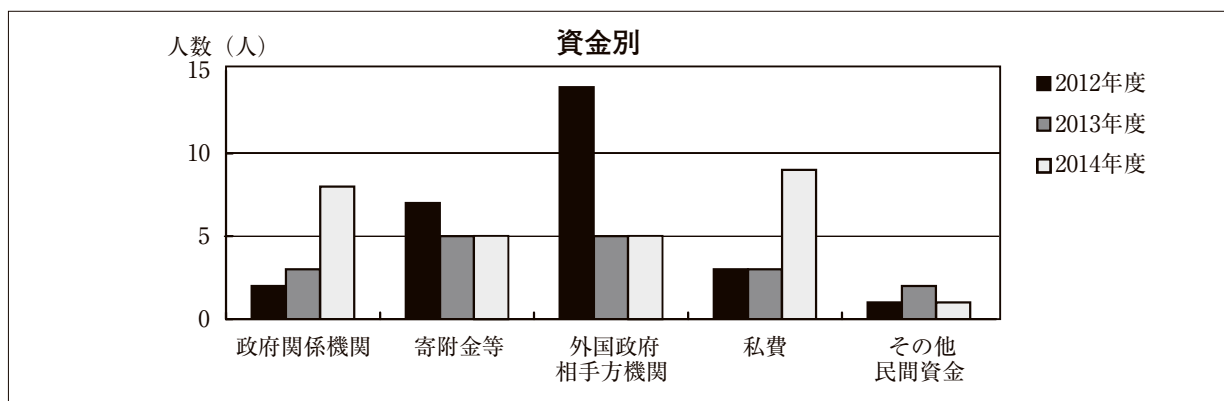
中東 (単位：人)

国名	2012年度	2013年度	2014年度
イスラエル	0	1	0



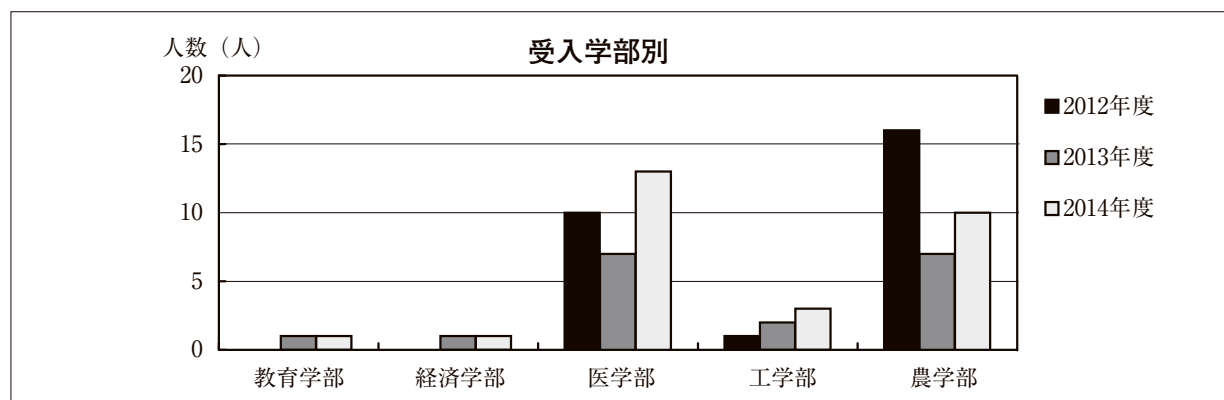
【受け入れ期間別】 (単位：人)

年 度	2 週 間 未 満	2 週 間 以 上 ～ 3 ヶ 月 未 満	3 ヶ 月 以 上 ～ 6 ヶ 月 未 満	6 以 上 1 年 未 満	1 年 以 上	合 計
2012 年 度	7	9	1	6	4	27
2013 年 度	6	4	1	1	6	18
2014 年 度	6	11	0	7	4	28



【資金別】 (単位：人)

年 度	政 府 関 係 機 関	寄 附 金 等	外 国 政 府 相 手 方 機 関	私 費	そ の 他 民 間 資 金	合 計
2012 年 度	2	7	14	3	1	27
2013 年 度	3	5	5	3	2	18
2014 年 度	8	5	5	9	1	28



【受け入れ学部別】 (単位：人)

年 度	教 育 学 部	経 済 学 部	医 学 部	工 学 部	農 学 部	合 計
2012 年 度	0	0	10	1	16	27
2013 年 度	1	1	7	2	7	18
2014 年 度	1	1	13	3	10	28

平成 26 年度 国際学会・シンポジウム等開催状況

学会・シンポ等名称	開催期間	開催場所	招へい外国人研究者	主催部局等名	担当教員	参加者人数
国際シンポジウム「アジア・太平洋域における水危機に立ち向かう」 (International Conference on the Water Crisis in the Asia-Pacific Region)	2015/2/10 ～ 2/12	香川大学	S. I. Khan, ATM. S. Hossain, S. Dutta, P. Bhattacharya, L. Cajee, H. J. Syiemlieh, R. K. Dahal, G. L. Tuladhar, G. Batdelger, O. Jigsuren	香川大学「水プロジェクト」・ 香川大学地球 ディベロプメン トサイエンス国 際コンソーシア ム (ICEDS)	寺尾 徹	200 名
市民講演会 水危機克服へ 「讃岐からの国際協力」	2015/2/11	香川大学 オリーブスクエア	S. I. Khan	香川大学イン ターナショナル オフィス・ 香川大学「水プ ロジェクト」・ 香川大学地球 ディベロプメン トサイエンス国 際コンソーシア ム (ICEDS)	寺尾 徹	80 名
ファイトジーンの可能性と 未来 VII (International Phyto gene Symposium VII)	2014/9/30	かがわ国際会議場	Joong-Hoon Ahn 博士	農学部	秋光 和也	80 名程度
第 3 回国立嘉義大学との ワークショップ	2014/11/3 ～ 11/5	国立嘉義大学	-	工学部	垂水 浩幸	日本側 教員 7 名、 学生 5 名
2014 年 IEEE メカトロニ クスとオートメーションに 関する国際会議 (The 2014 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation)	2014/8/3 ～ 8/6	天津日航ホテル 中国、天津市	Dr. Homayoon Kazerooni  Director of the Berkeley Robotics and Human Engineering Laboratory, Professor and Director, Mechanical Engineering Department, University of California, Berkeley  Prof. Tzyh Jong Tarn, Center for Robotics and Automation Washington University, St. Louis, USA  Prof. Max Q.-H. Meng The Chinese University of Hong Kong, China	工学部	郭 書祥 (組織委員長) 平田 英之 石原、澤田、 鈴木、高橋 (組織委員)	450 人 (34 の国と 地域)
第 5 回チェンマイ大学・香 川大学合同シンポジウム 2014 (The Fifth Chiang Mai University - Kagawa University Joint Symposium 2014)	2014/9/10 ～ 9/12	タイ・チェン マイ大学	-	香川大学 (共催)	第 5 回香川大 学・チェンマ イ大学の合同 シンポジウム 準備委員会 (委 員長：高木 由美子)	日本側 78 名
第 4 回 SUIJI セミナー	2014/9/13 ～ 9/15	インドネシア・ ハサヌディン大 学	-	香川大学 (共催)	香川大学 SUIJI 推進室長 加藤 尚	100 名程度

## 日本学術振興会「二国間交流事業（オープンパートナーシップ共同研究）」 によるブルネイ・ダルサラーム国と日本国における糖尿病及び肥満の 比較研究を通じた国際貢献活動

インターナショナルオフィス 細田 尚美

独立行政法人日本学術振興会「二国間交流事業（オープンパートナーシップ共同研究）」による「ブルネイ・ダルサラーム国と日本国における糖尿病及び肥満の比較研究を通じた国際貢献」（代表：徳田雅明・医学部教授、平成25～26年度）の研究活動が日本ならびにブルネイ・ダルサラームにおいて実施された。本事業には、医学部・教育学部・農学部・工学部・インターナショナルオフィスなどの教員と大学院生が参加し、学際的なアプローチで同国の糖尿病・肥満及びその合併症の罹患率低下のための活動を行う。

### ○国際会議での共同発表（平成26年6月26日(木)）

ブルネイ・ダルサラーム大学で開かれた第10回国際看護助産学会議（10th International Nursing and Midwifery Conference）において、本共同研究プロジェクトの成果の一部「Evaluation of Nutrition Education Programme in Kagawa Japan : Lesson Learned for Brunei Darussalam」を発表した。

### ○国際フォーラムの開催（平成26年12月22日(月)）

香川大学医学部において国際フォーラムを開催した。フォーラムは、JICA草の根事業「タイにおける妊産婦管理及び糖尿病のためのICT遠隔医療支援プロジェクト」、JSTさくらサイエンスプラン「生活習慣病の克服プログラム」との共催で行い、他の事業の参加者のほか、他大学の研究者や市民にも公開して開かれた。

### ○共同研究意見交換会（平成27年1月5日(月)～8日(木)）

香川大学の本事業参加者がブルネイ・ダルサラーム大学を訪れ、同大学の理学部、医学部の教員と意見交換や研究成果の紹介（薬用成分の新しい抽出法の紹介とデモンストレーション、抽出物から活性成分を特定する有効な方法の紹介、実際の肥満抑制やガン抑制活性成分の探索の事例紹介、共同研究を組むための組織づくりと共同研究施設見学など）を行った。

### ○料理実習導入のためのミニワークショップの開催（平成27年2月13日(金)）

香川大学の本事業参加者がブルネイ・ダルサラームを訪れ、ブルネイ・ダルサラーム大学の研究者や教育省担当官らと共同で、同国の小学校教育（理科）の一環として料理実習を導入するための事前研修として、ミニワークショップを開催した。ミニワークショップはブルネイの小学校で実施され、同国の理科の教員ら約20名が参加した。ブルネイでは肥満防止のため平成27年中に、同国で初めて学校での調理実習を試験的に実施する。

# 日本語教育カリキュラム等の報告

インターナショナルオフィス 高水 徹

## 1. 概要

インターナショナルオフィス留学生センターが平成26年度に提供した日本語教育関連科目等は、以下の通りである。

- ① 日本語研修コース（初級）およびさぬきプログラム
- ② 日本語講座
- ③ 医学部における日本語サロン
- ④ 日本の食の安全留学生特別コースの日本語関連科目

平成25年度との主な相違は、以下の点である。26年度開講の日本語研修コースは、前年度同様、初級レベルであった。対象学生は予備教育後、教員研修生として教育学部に所属予定であった。本コースは、新規プログラムであるさぬきプログラムとほとんどの授業を共通化しているため、1項目で記載している。さぬきプログラムに関しては、別稿も参照いただきたい。また、昨年度まで存在した日本語語学研修は終了し、そのノウハウの一部はさぬきプログラムに活用されている。

## 2. それぞれの科目に関する記述

### ① 日本語研修コース（初級）

日本語研修コースは、国費留学生の予備教育として開講されるコースで、集中的に日本語を習得する。毎日開講される「日本語」の他、従来は週1コマの「日本事情」を含んでいた。この度、さぬきプログラムの新規開講とその授業共通化に当たり、さぬきプログラムにおける「日本事情」も本コースの学生に受講させることとした。したがって、「日本事情」は従来よりかなり充実し、学期あたり3コマないし4コマの開講となっている。なお、平成26年度前期は、所属する国費留学生がおらず、さぬきプログラムの開講も後期からだったため、本コースは開講されていない。後期は2名の国費留学生と1名のさぬきプログラム学生が留学生センターに所属し、本コースを受講した。学生のレベルに合わせ、初級の授業が行われた。

使用教材は『みんなの日本語』で、発音、ひらがなから始め、34課まで終了した。これは例年と比較して、平均的なペースである。英語による日本事情の充実や、他コースの留学生（特に、日本語・日本文化研修留学生、別稿を参照）および日本人学生との交流等の相乗効果で、習得した日本語の知識の活用も積極的になされたようである。担当教員は日本語が専任教員2名、非常勤講師1名、日本事情が専任教員3名、客員教員1名である。

なお、26年度までの留学生センター所属の国費留学生に関するデータは、本稿末尾に掲載している。



② 日本語講座

このカテゴリーの授業は、学生が自分の都合のよい時間に、内容およびレベルを選択して受講することができる。以前は「日本語補講」も存在したが、近年は予算的な面以外は同様になっていた。26年度よりそのような別予算での授業はなくなったため、この項目に共通化された。これらの授業は、本学に所属する学生が日本語力を向上させるためのものであり、単位の付与はない。

③ 医学部における日本語サロン

医学部の留学生のため、地元香川で日本語学習支援・生活支援を行っているボランティア団体である「わ」の会にお願いして、サロンを開催していただいている。以前は日本語レベルの高い学生も対象としていたが、現在では、対象を入門または初級に絞って実施している。

④ 日本の食の安全留学生特別コースの日本語関連科目

これらの科目はアジア人財資金構想（高度専門留学生育成事業）の科目を引き継いで以降、「アジア人財日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「ビジネス日本語Ⅰ、Ⅱ」「ビジネス教育Ⅰ」で構成されていた。しかし、対象学生の日本語力を引き上げ、卒業時にN2程度という卒業要件を満たすという必要性、および学生からの要望により、「食の安全学生向け補講」として科目数を増加させた。

以上に加え、留学生センター以外から提供される以下の授業科目も、一覧に掲載されている。

⑤ 全学共通科目の日本語・日本事情（大学教育開発センター提供、表中※で表記、単位あり）

⑥ 農学研究科AAPコースの日本語・日本事情

⑤はその編成および実施の一部を大学教育開発センターのコーディネーターとして留学生センター教員が担当している。⑥は農学研究科における英語によるコース（修士課程）の中で、必修化されている日本語および日本事情に関する科目で、その編成および実施を留学生センターが担当している。

これらに関しては、インターナショナルオフィス留学生センターが直接提供しているわけではなく、カリキュラム、非常勤講師の調整、運営等を留学生センターまたはその教員が主導している。

留学生に対するこれらの授業に関する周知は、以下の一覧に基づき、新入留学生対象のガイダンスや掲示、ネット上の掲載を通して行っている。



平成 26 年度 前期 日本語関連授業一覧

曜日	幸町キャンパス Saiwai - cho Campus	農学部キャンパス Faculty of Agriculture	医学部キャンパス Faculty of Medicine	工学部キャンパス Faculty of Engineering
月 Mon	1			
	2			
	3	※日本語Ⅲ a (中上級) Japanese IIIa (Upper Intermediate) 轟木 Todoroki		
	4	※日本語Ⅰ a (中級) Japanese Ia (Intermediate) 山下 (直) Yamashita,N.		
	5			
火 Tue	1			
	2	※日本語Ⅰ b (中級) Japanese Ib (Intermediate) 山下 (明) Yamashita,T.	サバイバル日本語 (初級) Survival Japanese (Elementary) 早川 Hayakawa	
	3	※日本事情Ⅰ b Japanese Affairs Ib 細田 Hosoda	日本語基礎Ⅱ Basic Japanese II (Intermediate) 青木 Aoki	
	4	中上級総合 Upper Intermediate Japanese Lang. Skills 和田 Wada		
	5	中級作文 Intermediate Writing 和田 Wada	ビジネス日本語Ⅰ Business Japanese I (Upper Intermediate) 青木 Aoki	
水 Wed	1			
	2	初中級総合 Upper Elementary Japanese Lang. Skills 秋田 Akita	科学技術日本語 Japanese for Science and Technology 早川 Hayakawa	
	3	初中級総合 Upper Elementary Japanese Lang. Skills 秋田 Akita	中級総合 Intermediate Japanese Lang. Skills 14:00 - 17:00 塩井 Shioi	○日本語サロン (初級) Lang. Salon Class (Elementary) 14:00 - 15:30 「わ」の会
	4			
	5			
木 Thu	1			
	2	※日本語Ⅴ b (上級) Japanese Vb (Advanced) 佐藤 Sato		
	3	※日本語Ⅲ b (中上級) Japanese IIIb (Upper Intermediate) 佐藤 Sato		
	4	初中級総合 Upper Elementary Japanese Lang. Skills 高水 Takamizu		
	5	初中級総合 Upper Elementary Japanese Lang. Skills 高水 Takamizu		
金 Fri	1			
	2	※日本語Ⅴ a (上級) Japanese Va (Advanced) 早川 Hayakawa		☆初中級 1 Upper Elementary 1 児島 Kojima
	3	中級総合 Intermediate Japanese Lang. Skills 塩井 Shioi		
	4	※日本事情Ⅰ a Japanese Affairs Ia 早川 Hayakawa		☆初中級 2 Upper Elementary 2 児島 Kojima
	5	中級総合 Intermediate Japanese Lang. Skills 塩井 Shioi		

平成 26 年度 後期 日本語関連授業一覧

曜日	幸町キャンパス Saiwai-cho Campus	農学部キャンパス Faculty of Agriculture	医学部キャンパス Faculty of Medicine	工学部キャンパス Faculty of Engineering
月 Mon	1			
	2	※★初級日本語 I a Elementary Japanese I a 塩井 Shioi		
	3	※★初級日本語 I a Elementary Japanese I a 塩井 Shioi		
	3	※日本語 IV a (中上級) Japanese IV a (Upper Intermediate) 轟木 Todoroki		
	4	※★初級日本事情 b Japanese current affairs b (Elementary) : Japanese Official Development Assistance toward the developing countries 熊谷 Kumagai		
5				
火 Tue	1		ビジネス日本語 II Business Japanese II (Upper inmediate) 宝山 Hozan	
	2	初級日本語 Elementary Japanese 塩井 Shioi	ビジネス教育 I Japanese business manner and culture I (Upper inmediate) 宝山 Hozan	☆初級 1 Upper Elementary 1 児島 Kojima
	2	※日本語 I c (中級) Japanese I c (Intermediate) 高水 Takamizu	日本事情・地域交流 Studies on Japanese Culture/ Community Exchange (Elementary) 早川 Hayakawa	
	3	※日本語 IV b (中上級) Japanese IV b (Upper Intermediate) 山下 (明) Yamashita, T.		
	3	初級日本語 Elementary Japanese 塩井 Shioi	日本語基礎 I Basic Japanese I (Upper Elementary) 青木 Aoki	☆初級 2 Upper Elementary 2 児島 Kojima
4	※★初級日本事情 c Japanese current affairs c (Elementary) : Comparative Cultures 細田 Hosoda	日本語基礎 III Basic Japanese III (Upper Elementary) 青木 Aoki		
5	中上級日本語 Upper Intermediate Japanese 和田 Wada			
水 Wed	1			
	2	初級日本語 Elementary Japanese 秋田 Akita	フレッシュマンセミナー (初級日本語) Freshman Seminar (Elementary Japanese) 早川 Hayakawa	
	3	※日本語 II a (中級) Japanese II a (Intermediate) 佐藤 Sato		○日本語サロン (初級) Lang. Salon Class (Elementary) 14 : 00 - 15 : 30 「わ」の会
	3	初級日本語 Elementary Japanese 秋田 Akita		
	4	※★初級日本事情 a Japanese current affairs a (Elementary) : Internationalization of Japan's youth 正楽 Shoraku	日本語基礎 (中上級) Basic Japanese (Upper Intermediate) 塩井 Shioi	
5				
木 Thu	1			
	2	※★初級日本語 I b Elementary Japanese I b 高水 Takamizu		
	2	※日本語 II c (中級) Japanese II c (Intermediate) 塩井 Shioi		
	2	※日本語 VI b (上級) Japanese VI b (Advanced) 山下 (直) Yamashita, N.		
	3	※★初級日本語 I b Elementary Japanese I b 高水 Takamizu		
4	※★プロジェクトさぬき Project Sanuki (Research based course about Kagawa) ロン他 Lrong and others			
5	※★プロジェクトさぬき Project Sanuki (Research based course about Kagawa) ロン他 Lrong and others			
金 Fri	1	※★初級日本語 I c Elementary Japanese I c 高水 Takamizu		
	2	日本語基礎 (初級) (Upper Elementary) 塩井 Shioi		
	2	※★初級日本語 I c Elementary Japanese I c 高水 Takamizu		
	2	※日本語 VI a (上級) Japanese VI a (Advanced) 早川 Hayakawa		
	3	日本語基礎 (初級) (Upper Elementary) 高水 Takamizu		
4	★Business enterprises in the era of globalization ロン Lrong			
5				

## 留学生センター所属国費留学生

期 間	国 籍	人数	予備教育後の所属
2003年10月～2004年3月	コ ス タ リ カ	1	教育学部（教員研修）
2004年4月～2004年9月	ドミニカ共和国	1	経 済 学 研 究 科
	ベ ト ナ ム	1	経 済 学 研 究 科
2004年10月～2005年3月		0	
2005年4月～2005年9月	ア ルゼンチン	1	医 学 系 研 究 科
	エ ジ プ ト	1	医 学 系 研 究 科
	バブアニューギニア	1	医 学 系 研 究 科
2005年10月～2006年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
2006年4月～2006年9月		0	
2006年10月～2007年3月		0	
2007年4月～2007年9月		0	
2007年10月～2008年3月		0	
2008年4月～2008年9月		0	
2008年10月～2009年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
2009年4月～2009年9月	ジ ン バ ブ エ	1	農 学 研 究 科
2009年10月～2010年3月	ペ ル ー	1	教育学部（教員研修）
2010年4月～2010年9月		0	
2010年10月～2011年3月	カ ン ボ ジ ア	1	教育学部（教員研修）
	ホンジュラス	1	教育学部（教員研修）
2011年4月～2011年9月		0	
2011年10月～2012年3月	インドネシア	1	教育学部（教員研修）
	マレーシア	1	教育学部（教員研修）
2012年4月～2012年9月	ロ シ ア	1	経 済 学 研 究 科
2012年10月～2013年3月		0	
2013年4月～2013年9月		0	
2013年10月～2014年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
	ラ オ ス	1	教育学部（教員研修）
2014年4月～2014年9月		0	
2014年10月～2015年3月	インドネシア	1	教育学部（教員研修）
	コ ス タ リ カ	1	教育学部（教員研修）

## 相談事業の報告

インターナショナルオフィス ロン リム

平成26年度相談事業の報告をする。本学の留学生相談担当は、1名で運営していますが、日頃、学内外から多くの関係者の協力や支援を頂いて、相談に対応している。大半の相談は、相談依頼者に耳を傾けて、話を聞くだけで済む。

深刻な相談は、まず、学内の関係者と検討して、解決法を探ります。これ以上、稀なケースは、学外の専門家や知識人に協力を依頼する。

学生への相談業務の周知方法は、学内でのポスターまたはインターネットを通して掲載する。件数の数え方は、各相談には、1回とする。相談内容によって、1回の対応で済む場合もあり、数回の相談に渡って対応する場合もあった。本年の相談件数は、326件だった。

### <相談方法>

相談方法について（表1を参照）、メールでのルートは215件で、一番多かった。直接、来室しての相談は84件だった。来室以外、学内での相談は13件で、学外での相談は6件だった。電話を通しての相談は8件だった。メールでの相談はしやすくて、記録に残るのもメリットとなる。昨年まで、ファックスでの相談もあったが、今回はなかった。

表1：相談方法 (件)

方法/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
メール		14	18	27	29	22	26	23	22	13	18	3	215
来室での相談	14	12		2		8	3	1		15	9	20	84
学内相談での相談	4							1		2	1	5	13
電話	6	1									1		8
学外相談での相談	1								5				6
合計	25	27	18	29	29	30	29	25	27	30	29	28	326

### <相談者>

相談者別を見ると、教職員との相談は102件でもっとも多かった（表2を参照）。

外部教職員からの相談は73件だった。留学生からの相談件数は72件だった。四番目として多かったのは、日本人の学生からの相談だった（57件）。最後に、一般の方々からの22件だった。

表2：相談者 (人)

相談者/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
教職員	9	10	1	8	9	5	6	8	7	12	9	18	102
外部教職員		4	10	10	5	8	15	7	9	2	3		73
留学生	5	7	5	6	4	4		9	4	11	11	6	72
日本人学生	5	5		5	7	13	5	1	5	5	5	1	57
一般	6	1	2		4		3		2		1	3	22
合計	25	27	18	29	29	30	29	25	27	30	29	28	326

### <相談内容>

相談内容について、一番多かったのは、学業関係だった（表3を参考）。これは126件だった。学業不良の相談の他、インターナショナルオフィスが開始したEXPLOREという協定大学への派遣事業に関する内容が多かった。2番目多かった相談内容は、国際交流活動のことだった。件数としては57件だった。これは例年と同様、留学生は日本人学生と地域住民との交流に関する内容であった。

表3：相談内容 (件)

相談内容/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
学 業 関 係	12	12	3	10	12	19	12	13	6	10	6	11	126
国 際 交 流 活 動	4		2	4	8	5	5	3	3	9	7	7	57
情 報 交 換 関 係	2	3	6	9	3		2	4	5	3	5	5	47
学 術 交 流 関 係	3	3	5	5	6	3	6	4	5	1	1		42
生 活 一 般		1	1	1		1	2		1	3	4	1	15
チ ュ ー タ ー	2	1							3		4	3	13
交 通 事 故		2							4	3	1		10
指 導 教 員 と の 問 題	1	4											5
入 管 関 係			1			1		1			1		4
医 療 関 係						1				1		1	3
ト ラ ブ ル 関 係							2						2
経 済 問 題		1											1
就 職 ・ ア ル バ イ ト	1												1
合 計	25	27	18	29	29	30	29	25	27	30	29	28	326

3番目に多かったのは、情報交換関係で、47件だった。学术交流関係の相談は42件を記録した。5番目に多かった相談内容は、生活一般に関するものだった。記録として、15件だった。次に、チューター関係の相談は13件あった。留学生からの、チューターの機能はうまく働いていないとの報告も含んでいる。

交通事故に関する相談や対応は、10件の記録だった。指導教員とのトラブルは5件あった。この種の相談は、非常に対応しにくくて、悩まされる。また、件数は少ないが、深刻なトラブルの相談は2件あった。1件は海外留学中に、本学の学生がパーティーに参加していた時のトラブルだった。もう1件は、留学生とアルバイト先とのトラブルだった。この件は、警察が介入することとなり、かなり大変なケースであった。

### <過去6年間のデータと比較>

参考のため、過去の数年間のデータと比較している数値を提供する。全体的に、相談件数は増えている。気になるのは、交通事故の件数と指導教員とのトラブルである。

表4：過去6年間のデータと比較

(件)

相談内容 / 年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
情報交換関係（情報収集・提供、挨拶）	58	26	52	32	18	29	47
学業関係（入学、進学、研究、学習、見学）	22	18	41	99	71	98	126
入管関係（入管、ビザ、在留）	2	19	4	6	2	6	4
医療関係				3	7		3
生活一般（住居、日常生活、チューター）	29	53	31	24	33	7	28
就職・アルバイト関係	12	7	7	2	6	9	1
国際交流・サークル活動	114	70	81	65	74	79	57
学術交流関係（海外大学協定など）	29	15	32	21	17	28	42
経済問題（奨学金、授業料）	4	6	23	5	2	6	1
トラブル関係（人間関係、ミスコミュニケーション、家庭内トラブルなど）	5	16	11	42	45	4	2
交通事故						2	10
指導教員とのトラブル						1	5
名誉棄損						15	
暴力事件						2	
ハラスメント						3	
盗難被害						1	
犯罪の加害						1	
合計	275	230	282	299	275	291	326

## 全学共通科目「Study Abroad」授業の報告

インターナショナルオフィス 正 楽 藍

本学の全学共通科目として、平成25年度から「Study Abroad - Global English at UC/UWA」を開講している。この科目は、グローバル人材に求められる3要素（語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性など、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ）を養うことを目的として、本学での国内研修と本学の学術交流協定校（カルガリー大学及び西オーストラリア大学）での研修を組み合わせたものである。平成26年度は、経済学部生3名と法学部生1名、教育学部生4名の計8名の受講生であった。通常は前期の開講であるが、平成26年度は授業担当教員の都合により、後期の開講となった。また、カルガリー大学での研修期間と本学の春季休暇があわず、平成26年度は西オーストラリア大学でのみ研修を実施した。

国内研修では、英語によるコミュニケーションとしてself-introductionやtopic discussion、presentationを実施した他、派遣先大学への申込書類の作成やパスポートの取得、航空券の手配なども授業の一環として行った。書類作成にあたっては、英語での住所の書き方に戸惑ったり、サインをローマ字で書くべきか漢字で書くべきかを迷ったりする姿も見られたが、こうしたことすべてが受講生にとって貴重かつ必要な経験である。また、受講生はそれぞれ、相手の心に伝わる英語での自己紹介やプレゼンテーションに工夫を凝らしたり、他の受講生の発表にうまく質問できずもどかしい思いをしたりしながらも、派遣先大学での海外研修を期待と不安が入り混じった気持ちで待ち望んでいる様子であった。

協定校での研修期間すべてにわたって、派遣先大学が手配するホストファミリー宅で生活することとなる。平日日中は大学でのネイティブ教員による研修、夕方と週末はホストファミリーと過ごすとあって、受講生は文字通り「英語漬け」の5週間を送ることとなった。

最初は、他のさまざまな国から集まった研修生との授業になじめず、自身の英語力や積極性の足りなさを実感した様である。しかし、次第に授業にも慣れ、ホストファミリーとも打ち解けて、たどたどしく、そして、ゆっくりとした英語ではあるが、何とか自分の意思を相手に伝えることができるようになった。研修期間が終わるころには他の研修生ともすっかり打ち解けて、帰国後もFacebook等でつながりを持っている様である。

帰国後の受講生は、本学で学ぶ外国人留学生と積極的に交流するようになったり、自由参加の英語による講義へ顔を出すようになったり、本学の他の留学プログラムへも参加してみたりと、これまで以上にさまざまな国際交流活動に参画している。本授業がきっかけとなり、国際交流への心の扉が開いた様子を見られて大変うれしく感じる。



## 全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」(タイにおける研修)の実施

インターナショナルオフィス ロン リム・高 水 徹

インターナショナルオフィスは、全学共通科目として、「海外体験型異文化コミュニケーション」を提供している。この授業は、本学の重要な協定校である、タイ北部のチェンマイ大学における異文化体験を通して、国際コミュニケーション力を養うことを目的としている。

平成26年度、本授業の3回目を実施した。受講生は8名であった。教育学部からの受講生は2名で、法学部から4名、農学部と医学部から1名ずつであった。学年別では、2年生と1年生が、それぞれ4名だった。

(人)

期 間	学 部						学 年		合 計
	経済	教育	法	工	農	医	1	2	
2012年8月22日 ～9月2日	3	1	1		1		5	1	6
2013年9月1日 ～9月14日	3	1	1	1			5	1	6
2014年8月24日 ～9月6日		2	4		1	1	4	4	8

4月から7月までの事前学習では、現地での研修に必要な基礎知識や英語による発表の練習、現地における危機管理や注意事項などを学んだ。チェンマイ大学での研修日程は、8月24日(日)から9月6日(土)までであった。この中には、同大学の英語の授業への参加、長期実習中の他大学からの日本人学生による活動の見学、スポーツ大会への参加、各種フィールド学習、山間部でのホームステイ、日系企業見学の他に、英語による各学生の出身地紹介や、チェンマイ大学バディーズとのテーマ別ディスカッションが含まれている(現地研修日程を参照)。

これらの内容は、本学の教室内では学習および体験が難しいものであり、学生にとっては得がたい機会となった。本授業における体験が、より長期の留学につながる流れができつつあり、今後より一層それが強化されることを期待している。

## 現地研修日程

Date	Day	Activity
8/24	Sun	Depart Kansai International (11 : 45 am) Arrive CNX (via BKK) in evening (18 : 30 pm) Check in Lotus Pang Suan Kaew Hotel Welcome dinner with buddies (at MK Restaurant opposite hotel)
8/25	Mon	Campus tour with Buddies Lecture on Thai language (By Jaja sensei) Lunch Orientation by Assoc. Prof Rome Chiranukrom, Vice President Join Jaja sensei English Class
8/26	Tue	Join Jaja sensei English Class Lunch Observe Teaching Method of Japanese Exchange Student at CMU Demonstration School
8/27	Wed	Lecture on Thai Society (on Japanese ASEAN Relations) Lunch Sports Event
8/28	Thu	Visit Doi Suthep Temple Lunch Visit Chiang Mai Zoo
8/29	Fri	Home-stay at Ban Mae Gampong Field study at Tea and Coffee Plantation Kantoke dinner
8/30	Sat	Field study at Mineral Water Production plant Make Tea Pillow Back to Lotus Pang Suan Kaew Hotel
8/31	Sun	Free time Assemble in evening to visit Night Market
9/1	Mon	Visit factory in Lamphun Province (Kyocera Display (Thailand) Co., Ltd.) Lunch Orienteering event (to be conducted by Lrong)
9/2	Tue	Lecture on Thai Diet (Cooking Class)
9/3	Wed	Visit Study Centre of Sufficiency Economy According to His Majesty's Initiative Lunch Experience planting padi
9/4	Thu	Discussions with Buddies Lunch Team presentations in English by KU/CMU teams Farewell Party
9/5	Fri	Check out from Lotus Pang Suan Kaew Hotel Depart Chiang Mai for Bangkok Depart Bangkok for Kansai International
9/6	Sat	Arrive Kansai International Airport

## 「トビタテ！ 留学 JAPAN 日本代表プログラム（地域人材コース）」への参画

インターナショナルオフィス 正 楽 藍

「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！ 留学 JAPAN 日本代表プログラム～」が 2014（平成25）年度から実施されている。平成26年度からは、高校生コースを除く既存の4コースに加えて、地域人材コースが加わった。香川県は平成26年度末から本コースへの申請準備を開始し、平成27年度前期（第4期）から本プログラムに参画することとなる。

香川県内の企業などからいただいたご寄附と、香川県と高松市、香川大学とが出資する資金にあわせて、独立行政法人日本学生支援機構からの補助金のほぼすべてを、県内の高等教育機関に在籍する日本人学生等の海外留学への奨学金にあてるというものである。

地域人材コースが他の4コースと大きく異なるのは、応募資格を県内企業等への就職を目指す学生にしていることである。大学の国際化、日本社会のグローバル化と同時に、地方創成が叫ばれているなかで、県内の高等教育機関で学んだ学生をいかに地元に着させるか、とりわけ、地方の活性化や、大学等の国際化と地域貢献の観点から、在学時代の海外体験を地元に戻元してもらいたいとの思いがある。

日本学生支援機構からの補助金による本コースの実施は第4期と第5期、第7期までであるが、それ以降も、県内企業及び高等教育機関が連携して同様の事業を継続して展開することが期待されている。

## 海外語学研修プログラム（韓国語）の報告

インターナショナルオフィス 塩井実香

インターナショナルオフィスが派遣している韓国語研修先は、大邱大学と建国大学の2大学である。大邱大学は学術交流協定校であり、建国大学は、協定関係にはないが、我々留学生センター主催の日本語語学研修プログラムで学生受け入れ実績もあるなど、以前より交流のある大学である。

本学が海外へ派遣する学生については、2013（平成25）年度より、本学所定の海外旅行保険（包括契約）への加入を義務付けることとなった。よって、派遣形態が変わっても、英語研修への派遣学生も、韓国語研修への派遣学生も、渡航時期が近い者についてはまとめて加入手続きをし、渡航前の危機管理ガイダンスを受けさせたうえで派遣することとしている。

### 1. 大邱大学

夏季プログラムが2014年8月4日(月)～8月22日(金)の3週間、冬季プログラムが2015年2月3日(火)～2月23日(月)の3週間であったが、残念ながらどちらも本学の期末試験期間と重なっていたため、学生を派遣することはできなかった。

### 2. 建国大学

夏季プログラムが2014年8月18日(月)～29日(金)の2週間、冬季プログラムが2015年2月2日(月)～14日(土)の2週間であった。冬季のほうは希望者がいなかったが、夏季は希望者1名（法学部2年、女性、初修外国語として韓国語を履修中）を派遣した。

## 第20回日本語語学研修プログラム報告

インターナショナルオフィス 高水 徹

### 1. 本プログラムの目的

本プログラムは、「外国人学生に日本語教育を提供し、併せて日本、特に香川の歴史や文化を紹介すると共に、日本人及び地域社会との交流を図ること」を目的として、平成17（2005）年より実施してきた。近年は、香川県に関する学習を充実させるため、「さぬき学」を研修に含めてきた。

本学としては、研修生の本プログラムによる本学滞在が、より長期の留学につながる効果も期待している。

なお、本プログラムは今回が最終回となり、このような形態での短期受入れプログラムは今後実施しないことになった。

### 2-1. 研修生

今回の研修生は8名である。輔仁大学（台湾）からは5名の研修生が参加した。所属は全て外国学部日本語学科で、1年生が3名、2年生が2名である。清州大学（韓国）からは3名の研修生が参加した。所属は全て日語日文学科であり、全員4年生である。なお、同大学は本学の協定校の1つである。

以前より、本プログラムの参加者は女性が多かったが、今回も同様に、女性が7名で、男性は1名のみであった。

### 2-2. バディーズ

今回は8名の本学学生がバディーズとして活動した。所属は3学部（経済、教育、法）に分散しており、学年もまちまちである。本プログラムのバディーズは、研修生と1名ずつ対応させるシステムにはしていないが、これだけの人数がいると、活動に幅も生まれ、本学学生間の連携も取りやすい。

### 2-3. ホストファミリーとホームステイ

今回、ホストファミリーを引き受けていただいたのは5つの家庭であり、3家庭には2名を受入れていただいた。いつもながら本学の国際関連活動にご協力いただき、大変ありがたいことである。

ホームステイは前回までと同様、金曜日夕方から日曜日夕方までの2泊3日である。

例年通り、ホームステイにおける注意事項は、授業を用いてしっかり伝達している。

なお、ホストファミリーの皆様方にも、本プログラムの終了に関してはお伝えしてある。

### 2-4. 研修期間

平成26年6月23日(月)から7月4日(金)の2週間。

研修生たちは、通常通り、本学キャンパス内の宿泊施設である幸町会館に、研修開始前日の日曜日にチェックインしている。

## 2-5. 研修日程表

以下の表において、一部例外を除き、「午前」は10:00から11:50、「午後」は13:00から14:50を表わしている。

6/23(月)	午前：開講式、ガイダンス 午後：授業「総合」(担当：ロン) 16:00～：インターナショナルオフィス長表敬訪問 18:00～：情報交換会	6/29(日)	16:00まで：ホームステイ
6/24(火)	午前：授業「総合」(担当：和田) 午後：授業「さぬき学」(担当：ロン)	6/30(月)	午前：学外学習「栗林公園」(担当：高水) 午後：授業「総合」(担当：高水)
6/25(水)	午前：授業「総合」(担当：塩井) 午後：体験学習「書道」(講師：書道部)	7/1(火)	午前：学外学習「四国村」(担当：細田) 午後：授業「総合」(担当：塩井)
6/26(木)	午前：学外学習「さぬき麺業」(担当：ロン) 午後：授業「さぬき学」(担当：細田)	7/2(水)	午前：授業「作文」(担当：高水) 午後：体験学習「茶道」(講師：石州流茶道部、担当：ロン)
6/27(金)	午前：授業「日本事情」(担当：細田) 午後：体験学習「華道」(講師：華道部、担当：塩井) 16:00～：ホストファミリーとの対面式(担当：高水)	7/3(木)	午前：授業「作文」(担当：塩井) 午後：授業「日本事情」(担当：細田)
6/28(土)	終日：ホームステイ	7/4(金)	午前：授業「総合」(担当：高水) 13:30～：花・花器の片づけ 15:00～：着物の着付け(仏生山国際交流会の明石氏、十河氏) 16:30～：研修体験発表会 17:30～：修了式 18:00～19:30：意見交換・反省会

## 2-6. 研修内容

「さぬき学」においては、栗林公園、さぬきうどん、観光等が取り上げられた。歴史や背景などに加えて、実際のメニューなど具体的な知識の習得やディスカッションが行われ、本学に滞在しなければ学べない、あるいは実地に目にするできない内容であった。

「日本事情」においては、「さぬき学」とも関連して、観光に関するグループ発表が行われ、特に今回の研修生は一定の日本語力を持ち、かつ、真摯に取り組んだために、内容の充実したものとなった。

その他の授業においても、過度にリラックスすることなく、かつ、楽しく学んでいた様子が見え、気が抜けてしまいがちな最終日においても、活発に質問が出たことが印象的であった。

学外実習に関しても上記の研修生の特質がよく表われており、実習後の授業でその内容を振り返っても、しっかりと学習したことが確認できた。一方で、事前に何度も注意しても蚊の対策が十分ではなく、多くの学生が刺されていたのは例年通りである。

栗林公園の窓口対応や予約システムが毎年のように若干異なっているため、せっかく前年度のコメント等を引き継いでも現場で急遽対応することがあり、大きな問題はなかったものの、何かこちらで伝達ミスがあったかと不安になることがあった。

今回の茶道担当は本学の3つの茶道部のうち、石州流であった。華道は華道部に、また、着物の着付けおよび着物の貸し出しは、仏生山国際交流会の明石氏、十河氏にご協力いただいた。

## 2-7. 第20回プログラムを振り返って

今回は、参加した研修生の真摯な態度が際立っていた。加えて、日本語能力も一定水準を満たしていた。これにより、本プログラムが重点を置いている、実地における体験に集中して取り組むことができた。グループ発表においても、最終発表においても、あまり「手心」を加えずに実施することができた。本学で毎週月曜日に実施している国際交流行事であるMonday Eventにも、積極的に参加してくれた。

先に述べたように、本プログラムは今回をもって終了することになっている。これまで百日咳の流行による中止、募集したものの日程等の都合で研修生が集まらなかったことを含め、いくつかの「困難」はあったものの、20回にわたり本プログラムを実施することができたのは、学外の皆様方、本学学生を含め、関連する全ての方々のご支援のおかげである。ここに改めて感謝の意を表したい。

本プログラムの実施により獲得したノウハウは、今後別の形で活かして、本学の留学生受入れを充実させていく所存である。



《参考》 過去の実績（ゴシックは協定大学）

	実施時期	期間	韓国								台湾			中国		
			韓国海洋大学	南ソウル大学 （※2）	大邱大学	建国大学	蔚山科学大学	ハンバット大学 （※3）	誠信女子大学	漢陽大学	清州大学	南台科技大学	真理大学	輔仁大学	河北医科大学	北京工業大学
第1回	2005/6/27～7/9	2週間	2	15												
第2回	2006/2/6～2/18	2週間	1								12					
第3回	2006/6/26～7/8	2週間		1	5											
第4回	2006/8/21～8/25	1週間												22		
第5回	2007/1/22～2/3	2週間									19					
第6回 （※1）	(2007/6/27～7/28)	(4週間)														
第7回	2008/1/21～2/2	2週間				3						5				
第8回	2008/6/23～7/18	4週間		9												
第9回	2009/1/19～1/30	2週間				3	5					5	3			
第10回	2009/6/29～7/24	4週間		3	2	3						2	3		1	
第11回	2010/1/25～2/5	2週間				1	5					3	3		2	
第12回	2010/6/28～7/9	2週間	3			1	1						2			
第13回	2010/7/27～7/30	4日間												15		
第14回	2011/1/17～1/28	2週間	5										6			
第15回	2011/6/27～7/8	2週間	4									1	7			
第16回	2012/1/30～2/10	2週間	4					1				2	2			
第17回	2012/6/25～7/6	2週間	2									1	2			
第18回	2013/1/28～2/1	2週間				1		1	2				4			
第19回	2013/7/1～7/12	2週間								4		2				
第20回 （※4）	2014/6/23～7/2	2週間								3			5			
大学別計（人）			21	28	7	12	5	6	2	2	7	31	21	37	37	3
第1～20回総計（人）			219													

※1 プログラムを計画し、学生募集も行ったが、本学における百日咳流行のため中止した。

※2 南ソウル大学は、2006年3月（第2回研修の翌月）に協定締結のため、第1回参加時には協定未締結。

※3 ハンバット大学は、2008年11月に協定を締結し、第11回より本研修に参加。

※4 当初は2014（平成26）年1月9～24日に実施予定だったが、2次募集まで行ったものの最小実施人数に達しなかったため延期。

## 2014年度留学生センター留学生の受け入れ

インターナショナルオフィス 塩井実香

留学生センターでは、「留学生センター留学生」としていくつかの制度による留学生の受け入れを行っている。

以下に、2014年度に留学生センターで受け入れた留学生について記す。各プログラムの詳細については、別項「日本語教育カリキュラム等の報告」を参照されたい。

### 1. 文部科学省 研究留学生

文部科学省外国人留学生制度を利用し、本学大学院への入学を希望する留学生のうち、半年間の日本語予備教育を必要とする者を留学生センターで受け入れ、日本語・日本事情の集中的な教育を行っている。2014年度には前期にバングラデシュより男女各1名、計2名の学生を受け入れ、初級の日本語・日本事情教育を行った。この2名は、2014年10月より所属を農学部へ移し、引き続き研究生として大学院進学に備えている。

### 2. 文部科学省 教員研修留学生

これも文部科学省外国人留学生の一つで、母国で教員をしている学生が、1年半日本の大学で学ぶため留学するものである。1年半のうち最初の半年間日本語教育を受け、その後の1年間、専門分野の研究・教育実践等を行う。2014年度には、後期に留学生センターで2名の留学生を受け入れ、半年間の初級日本語・日本事情教育を行った。内訳は、数学教師のコスタリカ人男性と、英語教師のインドネシア人女性である。この2名は、2015年4月より所属を教育学部に移し、専門の研究・実践等を行う。

### 3. 文部科学省 日本語・日本文化研修留学生

1・2同様、文部科学省国費留学生の一つであり、本学留学生センターとしては2014年度に初めて2名の受け入れを行った。内訳はメキシコ人男性とポーランド人女性で、いずれも上級レベルの日本語能力を有し、上級の日本語授業や全学共通科目、各学部開設の専門科目等を、各自の関心やスケジュールに合わせて積極的に履修していた。本プログラムの留学期間は1年間であり、修了時まで各自で設定したテーマに基づき日本語でレポート作成を行う。

### 4. さぬきプログラム

2014年度より新たに始めたプログラムである。本学の学术交流協定校に所属し、日本語初級レベルで日本留学を希望する学生を、特別聴講学生として留学生センターで受け入れ、初級日本語・日本事情の教育を行う、1学期間（半年間）のプログラムである。本プログラムの新設により、これまで日本語能力の関係で留学したくてもできなかった学生の受け入れが可能となり、本学の留学生増、キャンパスの国際化に貢献できる。また、上記1・2の初級学生と合同で授業が実施できるため、教育効果や留学生同士の交流促進も期待できる。2014年度には、後期に本プログラム1期生として、本学が海外教育研究交流拠点の一つと位置付けているブルネイ・ダルサラーム大学より男子

学生1名を受け入れた。

なお、上記1～4以外として、大邱大学（韓国）の人文学部日本語日本学科との覚え書き取り交わしによる、科目等履修生としての1学期間（半年間）の受け入れプログラムもあるのだが、2014年度は同大からの留学希望者がいなかったため、同プログラムでの受け入れ実績はゼロであった。

## 5. その他

これは「留学生センター留学生」のカテゴリーには含まれないのだが、記録として残しておく。

2014年度には、香川県研修員の制度にて渡日した外国人研修員のうち1名を、県からの委託により7～12月に本学留学生センターで受け入れ、必要な教育を行ったり研修機会を提供したりした。我々が受け入れたのはブラジルからの日系人男性（母国では大学生）である。当該研修生は、国際交流や教育制度に関心を持ち、将来的に教育関係への就職を希望していたため、本学の他、公益財団法人香川県国際交流協会、学校法人相愛幼稚園でも研修を行った。

## 各部局主催の短期受入プログラムにおける日本語授業の報告

インターナショナルオフィス 塩井実香

2011年度より、JASSOによる助成を受け、短期で海外から学生を受け入れる「Short Stayプログラム（SSプログラム）」と、短期で本学学生が海外研修に行く「Short Visitプログラム（SVプログラム）」が全国的に実施されるようになった。本学でも、複数のプログラムが採択され、担当部局主導で実施されている。

本報告では、インターナショナルオフィスが、2011年度より授業協力を行っている、農学部におけるSSプログラムと、SSプログラムではないが部局単位で行われ、インターナショナルオフィスも授業協力をした教育学部の短期受入プログラムについて記す。

以下、日程順に両プログラムについて述べたい。

### 1. 教育学部「アジア・アメリカ異文化交流短期受入プログラム2014」

教育学部が主管となって大学間協定を締結しているアメリカのコロラド州立大学より、2014年5月26日(月)から6月27日(金)までの5週間、同大で日本語を学習中の学生3名が来日し、教育学部で研修を行った。いわゆる日本語の授業、日本事情的な授業、教育学部開設科目への参加、各種見学・体験等で構成されているプログラムの中で、インターナショナルオフィスからも高水・塩井が日本語授業担当として協力することとなった。これは、教育学部長からインターナショナルオフィス長への依頼という形を経て学内非常勤講師として受けたものであり、同大参加学生には単位が付与されることから、本学（教育学部）所定の書式によりシラバスも作成して、実施に備えた。

学生3名は、日本語学習歴や日本語能力により初級2名と中級1名に分け、前者を高水担当の「国際交流基礎演習Ⅰ」、後者を塩井担当の「同Ⅱ」授業にて受け入れることとした。ただ、学生のレベル、授業科目設定、成績提出の都合上、このように履修者を分けたが、2014年度の本プログラム学生は全3名と例年より少なく、また、教師側の授業運営の都合上もあり、実際の授業は3名合同で高水・塩井が交代で担当する形で実施した。

授業は、自己紹介、旅行等の身近なテーマに基づく4技能の練習、学外での課題として日本語を用いた買い物実践などを行い、日本語による最終成果発表（PowerPointを用いた日本語でのプレゼンテーション）の準備・指導も本クラスで行った。また、研修後半には、同じくアメリカよりエッカード大学の学生が別プログラムで本学教育学部へ研修に訪れたため、本クラスにエッカード大生も加わっての授業も1度行った。

成果発表は、準備期間が短かったにもかかわらず、各自関心のあるテーマについて、しっかりと日本語で行われ、5週間の学びが充実したものであったことが窺えた。

本プログラムは、前年度は昼休憩にも授業が組まれるなど非常にタイトなスケジュールで、学生・教員共に大変な面があったが、2014年度はその点は改善された。ただ、最終発表のための準備

を、プログラムが開始された後に先方引率教員より我々に依頼され、授業計画を変更せざるを得なかった点、また、教育学部のプログラムであるにも関わらず、発表の準備・指導の大部分を我々インターナショナルオフィス教員が担うこととなった点などは、2015年度へ向けて解決すべき課題であると考えている。

## 2. 農学部「東南アジアなどの食品安全機能解析教育に関する大学間相互交流プログラム

(Educational Program for students from South East Asia and Pacific Rim on Food Safety and Nutraceutical Science at Faculty of Agriculture, Kagawa University)」

農学部では、「日本の食の安全」留学生特別プログラムという修士課程のコースがあることもあり、2011年より食品安全実践教育を目指すSSプログラムが、夏季休業中を利用して行われている。このプログラムには、将来的に本学修士課程に入学する学生が出てくるとも期待して、日本語・日本文化を学ぶ時間も組み込まれており、インターナショナルオフィスの高水・塩井の2名が日本語授業を担当している。

2014年度は、8月19日(火)から9月19日(金)までの約1ヶ月間のプログラム中、5回の日本語授業が行われた。カンボジア・中国・インドネシア・タイ・ベトナム・ブラジル・アメリカ・トルコから計24名の学生が渡日し、文字・挨拶・簡単な会話といった日本語の基礎を学び、1回分(時間数で言えば2コマ分)の授業を使って、実際に学外へ出て学んだ日本語を使う買い物体験も行った。例年どおり、事前課題としてインターネット上の学習サイトや我々が準備しPDFで送った教材を利用したひらがな・カタカナ・挨拶表現の予習も課し、また、これも例年どおり、農学研究科在籍中の日本語学習歴のある留学生に、サポーターとして授業・買い物体験に協力してもらうことも行った。

2013年度よりプログラム修了時に成績(ただし、正課で行われているような「S、A、B、C、X(秀、優、良、可、不可)」ではなく、「Pass、X(合、否)」の2種のみ)を出すこととなり、2014年度も同様に成績提出を行った。評価は、日頃の授業態度、学外での買い物実践に関するレポート、全授業修了後のレポート課題などを総合的に考慮して行った。最終レポートでは、「研修期間中に行ったことを日本語で2つ以上」「日本語学習の感想や次年度以降のプログラムへの提案を英語で」という2問を課した。前者は授業中に学んだ基本的な日本語の語彙・文法の定着を見るため、後者は本授業の反省を活かし、より良い授業へとつなげるための意見収集が目的であった。

渡日前に多少日本語の学習経験がある学生も数名いたが、ほとんどの学生は日本語を初めて学ぶ初心者で、1ヶ月という短期間に、主目的の専門分野の研修・実習などをしながら、日本語の文字・語彙・表現などを学ぶのは大変だったと思われるが、提出されたレポートを読むと日本語学習に対してプラスの評価をする者が大部分で、また、その後本学農学研究科修士課程の入試を受けた者も数名いたことを鑑みると、本日本語授業も一定の成果を挙げられたのではないかと思う。

今後ますます本プログラムを契機に本学への留学・進学者が増えることを願うものである。



## 留学生対象各種進学説明会

インターナショナルオフィス 高水 徹

国内においては、平成26年6月から10月にかけて、日本語学校の留学生や教員を対象とした説明会に計7回参加した（末尾の表を参照）。会場は高松、岡山、大阪である。これらの説明会には、JASSO主催のもの、民間の機関主催のもの、日本語学校主催のものが含まれる。近年は特に岡山での広報活動を重点的に行っているが、その理由は、毎年岡山の日本語学校から本学に進学する留学生が多く、地理的条件を考えれば、今後も多くの留学生の入学が見込めるからである。

実際に岡山の会場では、他の開催地と同様の説明を行い、一見類似した質問を受けた場合でも、他の会場よりも詳細な内容であり、より真剣かつ具体的に本学への進学を検討している様子が伝わってきた。一方で、岡山会場においては、生活環境に関する質問などはあまり出てこない。これは、本学との地理的な近さを考えれば、学生にとって質問の必要がないからであると考えられる。

今年度も、高松において説明会が実施された。昨年度は、穴吹ビジネスカレッジ（日本語学科）の校内進学相談会（ただし、会場は校内ではない）のみであったが、今年度は他の日本語学校等所属の学生も参加する説明会も開催された。穴吹ビジネスカレッジは、本学から最も近い県内の日本語学校であり、以前から同校より本学へ多数の留学生が進学している。他の会場とは異なり、地理的なことや交通機関に関する質問などはなく、その分試験制度に質問が集中していた。一方で、専門分野や試験科目などの理由で、同校からの本学への進学を今以上に増やすことは、必ずしも容易ではない。

国外においては、今年度も海外におけるJASSO主催の日本留学フェアに参加した。平成26年11月15日(土)、16日(日)に、ベトナムのハノイ、ホーチミン会場にて、ブースを設置して広報活動を行った。いずれの会場でも、本学ブースには50名程度の留学希望者が訪れ、会場には非常に熱気があった。

同16日のホーチミン会場のフェア終了後、ドンズー日本語学校を訪問することができた。同校においては、日本の大学関係者との意見交換会が実施され、他大学におけるベトナム人留学生の様子や、同校の今後の方向性、同校から日本の大学への要望等、かなり踏み込んだ内容も取り上げられた。

さらに、同17日には、日本留学希望学生のみが寄宿・学習している、同校の留学生センターにて説明会が実施され、本学も参加することができた。今回は本学留学生で、同校卒業生であるゲン・ティー・ハー・フゥンを帯同していたため、日本や本学での留学生活について説明してもらった。

現状では、日本の大学への留学希望者がベトナムにおいて日本語学校に通っていたとしても、高等教育機関への進学に必要な語学力を習得するため、日本の日本語学校でさらに学習する必要がある場合がほとんどであり、同校の学生も基本的にはそのようにしている。実際に、日本語学校の学生が本学ブースに来た場合でも、通訳抜きで日本語で話せる学生は少なかった。本学が参加した日本国内での説明会の一部は、ドンズー日本語学校からの留学生を受入れている日本語学校の学生が多く参加するものである。

ベトナム全体として日本への留学が増加中であり、当分この傾向は続くと考えられるため、同国

から本学への留学生も徐々に増加することが見込まれるだろう。

開催日	開催地
6月2日(月)	岡山
6月28日(土)	大阪
7月13日(日)	大阪
7月15日(火)	岡山
7月16日(水)	高松
8月28日(木)	大阪
10月22日(水)	高松
11月15日(土)	ベトナム (ハノイ)
11月16日(日)	ベトナム (ホーチミン)



## 課外教育行事

インターナショナルオフィス 高水 徹

従来は、留学生の学習および交流の機会として、県外、特に関西地方や四国内の他県にも積極的に足を伸ばしていたが、今年度の課外教育行事は、県内の歴史・文化の学習に焦点を当てた。

### 第1回

平成26年9月26日(金)、第1回課外教育行事を実施した。今回の見学場所は丸亀城と本島であった。丸亀城では、留学生たちは「本丸」「二の丸」などの独特な語彙や、天守内に展示されている歴史的展示物に興味を示していた。本島では、瀬戸内国際芸術祭の作品の1つであり、本学学生も関わった版築や、伝統的町並みの残る笠島地区、映画「機関車先生」ロケ地などを訪れた。加えて、本島小学校を訪問し、小学生と留学生それぞれが作成したクイズで交流を行った。留学生のみならず小学生たちも非常によく準備してくれ、楽しい交流となった。

### 第2回

同11月29日(土)、第2回課外教育行事を実施した。見学先は善通寺、金毘羅宮、金丸座、満濃池、国立まんのう公園「まんのう公園ウィンターファンタジー」と盛りだくさんだった。この中で、善通寺と満濃池は、共に空海ゆかりの地であるが、留学生がこれらの地をそのような観点から訪問することはあまりなかったようである。満濃池に関しては、治水の側面に興味を持っている学生もいた。金毘羅宮や金丸座では、景色を楽しんだだけでなく、後者の貴重な舞台装置は非常に印象に残ったようである。

## 交流活動および地域住民との連携の報告

インターナショナルオフィス ロン リム

インターナショナルオフィスにおける国際交流活動を報告します。平成26年度に、国際交流活動は57回実施しました。参加者の延べ人数は、1499名です。そのうち、留学生は806名で、日本人学生は693名でした。大半の事業は、インターナショナルオフィスが主催あるいは共催するものであります。他に、地元の国際交流団体の主催するものもあります。これらの活動を大まかに、下記のように分類することができますと思います。

- (1) 留学生同士の交流または、留学生と日本人学生との交流
- (2) 留学生と地元住民との交流
- (3) 留学生と小学校の生徒との交流
- (4) 企業の関係者との交流、就職関連
- (5) 海外の来客との交流活動

- (1) 留学生同士の交流または、留学生と日本人学生との交流

このタイプの交流は、回数とすれば、一番多く実施した事業であります。全体の57回のうち、このタイプは35回を記録しました。具体的な例としては、コーヒータイムをはじめ、映画会、ランチプレゼンテーション会、学長主催の外国人留学生交歓会、春・秋季の情報交換会、と夏の日帰り旅行であります。休みの日以外、毎週の月曜日に定期的には実施するのは、コーヒータイムや、映画会、ランチプレゼンテーション会であります。総じて、Monday Eventと呼ばれています。他のイベントは、大体単発的に行われています。このタイプの交流を推進する主な理由は、学生同士の連携を促すためであります。同年層の知り合いがいれば、留学生たちはいち早く日本での生活になじんでくると我々は期待しています。日本の生活になじんでくると、生活上の困難も少しでも軽減できるのではないかと思います。

- (2) 留学生と地元住民との交流

日本人学生との連携の次に、やはり、地元住民との連携は同じく大事であります。大学の中に限らず、一般の方々とのコミュニケーションを取らせるため、町内での防災訓練やホームビジット、料理を通して町民とのやりとり（例えば、流しそうめん大会、世界食文化、紅葉狩り・うどん作り体験講習会）を計画して実施しました。

- (3) 留学生と小学校の生徒との交流

また、異なった側面で、近隣の小学校の生徒たちとの交流イベントも毎年、実施してきています。本学の附属小学校の他、留学生寮の近辺にある小学校や県内の小学校へ訪問したりして、小学生たちとの交流会を年に数回実施しました。

(4) 企業の関係者との交流、就職関連

留学生は卒業後、日本企業で就職することが珍しくない時代になってきています。そのため、就職支援関係の事業として、企業の方々との交流会や見学会を実施しています。現役社会人で本学の卒業生を、時には、パネリストとして招待してきて、就職に関心を持つ留学生と直接語り合っ、情報交換を行います。

(5) 海外の来客との交流活動

時には、海外からの来客は本学を訪問しに来ます。平成26年度には、ニュージーランドやオマーン国、ブルネイ、フランスの団体が訪れてきました。インターナショナルオフィスは、留学生と日本人学生の協力を得て、これらの来客との交流を企画して、対応しました。

平成 26 年度 留学生と日本人学生の交流事業

	開催日時			事業名	留学生	日本人学生	合計	備考
	日	月	時					
1	4月5日	土	15:30～17:00	新入留学生を囲んでの情報交換会	37	17	54	☆一般57名
2	4月14日	月	12:10～12:50	コーヒータイム1	9	17	26	
3	4月21日	月	12:10～12:50	映画会1	5	20	25	
4	4月28日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会1	8	25	33	
5	5月12日	月	12:10～12:50	コーヒータイム2	7	20	27	
6	5月19日	月	12:10～12:50	映画会2	10	24	34	
7	5月26日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会2	8	29	37	
8	6月2日	月	12:10～12:50	コーヒータイム3	17	25	42	
9	6月9日	月	12:10～12:50	映画会3	11	23	34	
10	6月15日	日	11:00～13:00	屋島東小学校交流会	3	0	3	☆
11	6月16日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会3	20	24	44	
12	6月18日	水	14:10～15:45	附属高松小学校交流会	6	0	6	☆
13	6月21日	土	8:30～13:00	花園地区防災訓練	12	4	16	☆教職員7名
14	6月23日	月	12:10～12:50	コーヒータイム4	20	28	48	
15	6月24日	火	14:00～15:00	附属高松小学校交流会	1	0	1	☆
16	6月29日	日		ホームビジット第1期1日目	13	0	13	☆ホストファミリー13家族
17	6月30日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会4	14	25	39	
18	7月3日	木	15:10～15:55	附属高松小学校交流会	4	0	4	☆
19	7月6日	日		直島日帰り旅行	61	26	87	☆
20	7月7日	月	12:10～12:50	コーヒータイム5	13	21	34	
21	7月9日	水	13:50～16:00	附属高松小学校交流会	3	0	3	☆
22	7月13日	日		ホームビジット第1期2日目	7	0	7	☆ホストファミリー7家族
23	7月14日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会5	7	17	24	
24	7月16日	水	19:00～20:30	中小企業との交流会	15	13	28	☆
25	7月28日	月	12:10～12:50	コーヒータイム6	6	19	25	
26	8月2日	土	11:00～13:00	花園寮流しそうめん	8	2	10	☆
27	8月10日	日		世界食文化(綾川町)	5	0	5	☆
28	9月20日	土		ICES・KUFSA デイ	14	7	21	
29	9月26日	金		課外授業	8	1	9	☆本島小学生17名
30	9月27日	土		世界食文化(綾川町)	4	0	4	
31	10月4日	土	15:30～17:00	新入留学生を囲んでの情報交換会	50	57	107	☆18名(警察関係者2、交流団体12、その他4)
32	10月6日	月	12:10～12:50	コーヒータイム7	8	15	23	
33	10月20日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会6	10	13	23	
34	10月27日	月	12:10～12:50	コーヒータイム8	11	17	28	
35	10月30日	木	16:20～17:30	日仏自治体交流会	5	35	40	☆
36	11月9日	日		紅葉狩り・うどん作り体験講習会	12	0	12	
37	11月10日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会7	9	12	21	
38	11月17日	月	12:10～12:50	コーヒータイム9	12	13	25	
39	11月21日	金	18:30～20:30	留学生と中小企業人事採用担当者の交流会1	21	0	21	☆企業17名
40	11月29日	土	8:30～21:50	課外授業 善通寺、金毘羅宮等	51	3	54	
41	12月1日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会8	8	11	19	
42	12月4日	木	13:40～15:00	附属高松小学校交流会	5	0	5	☆

	開催日時			事業名	留学生	日本人 学生	合計	備考
43	12月5日	金	18:00～20:00	平成26年度香川大学外国人留学生交歓会	131	43	174	
44	12月7日	日		ホームビジット第2期1日目	9	0	9	☆ホストファミリー8家族
45	12月8日	月	12:10～12:50	コーヒータイトム10	8	12	20	
46	12月10日	水	18:30～20:30	留学生と中小企業人事採用担当者の交流会2	13	0	13	☆企業7名
47	12月14日	日		ホームビジット第2期2日目	13	0	13	☆ホストファミリー9家族
48	12月17日	水	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会9	6	9	15	
49	12月22日	月	12:10～12:50	コーヒータイトム11	7	8	15	
50	1月19日	月	12:10～12:50	ランチプレゼンテーション会10	6	7	13	
51	1月20日	火	18:30～20:40	中小企業同友会交流会	6	0	6	☆(香川県中小企業家同友会主催)
52	1月21日	水	14:00～16:00	企業見学会	7	0	7	☆見学先1社
53	1月23日	金	16:00～18:00	平成26年度グローバルユースリーダー育成事業	6	13	19	☆
54	1月26日	月	12:10～12:50	コーヒータイトム12	12	8	20	
55	2月6日	金	9:00～13:55	附属高松小学校交流会	5	0	5	☆
56	2月20日	金	15:00～17:00	さよならパーティー	11	15	26	☆
57	3月23日	月	10:00～13:00	ブルネイ交流会	8	15	23	☆
合計					806	693	1499	

☆は学外(小学校、企業含む)との交流行事

## 就職支援プログラム

インターナショナルオフィス 高水 徹

平成26年度の本学における留学生を対象とした就職支援の多くは、中小企業庁・全国中小企業団体中央会の「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業」の一環として実施した。本事業は、日本国内の外国人留学生を活用し、中小企業の海外展開を支援するため、中小企業と外国人留学生などのグローバル人材とのマッチング、人材育成・定着を行うものである。四国地域においては、平成25年度も四国生産性本部が実施機関となり、本事業が採択されたが、平成26年度は本学も実施機関に加わり採択された。本学は、香川県での各行事等の実施に関しては、香川県留学生等国際交流連絡協議会の一員という立場からも各参加機関に働きかけた。

### ビジネス日本語講座

平成26年5月から7月にかけて、本学幸町および工学部キャンパスにて、ビジネス日本語講座を実施した。各キャンパス、5回ずつの実施であり、内容は日本の企業文化、敬語、業界・企業研究、自己分析、エントリーシートである。講師は本学国際グループの下山尚子および本学非常勤講師の兎島由佳が担当した。

### 中小企業の魅力研究セミナー&交流会

平成26年7月16日(水)には、「中小企業の魅力研究セミナー&交流会」を実施した。まず、ITコーディネータの中庭正人氏が、「魅力ある四国の中小企業」と題して、四国内の中小企業について紹介を行った。引き続き、本セミナーに参加している企業が、それぞれの紹介を行った。その後企業と留学生との交流会に移った。留学生たちは貴重な機会を活用して、積極的に様々な質問をしていた。

### 合同企業説明会

平成26年7月23日(水)に、香川県・岡山県中小企業家同友会および本学の主催により、合同企業説明会を実施した。参加企業は、香川から14社、岡山から4社であった。参加企業の紹介の後、参加学生たちは各ブースを自由に回り、情報収集を行っていた。

### 留学生就職活動準備セミナー

平成26年10月31日(金)、香川県社会福祉総合センターにて、留学生就職活動準備セミナーを実施した。構成は第1部：就活体験談、第2部：日本文化基礎講座、第3部：マイナビ担当者による就職活動全般の講義の3部構成であった。留学生にとって、就活の実践的知識とその背景の日本文化を習得でき、さらに先輩の話を聞くことができる有意義なセミナーとなった。

### 企業対象セミナーおよび交流会

平成26年11月21日(金)には、留学生採用支援セミナー&交流会を実施した。講師には行政書士の山田總子氏をお招きし、企業が留学生を採用する際の具体的なお話をいただいた。続いて高松大学の

稲井富赴代氏および筆者（高水）より、香川県内の留学生と就職に関する状況を説明したのち、企業の採用担当者と留学生の交流会を実施した。

同12月10日(水)の留学生活用セミナー&交流会では、富士産業株式会社の中條有二氏をお招きし、本学留学生の採用事例をお話しいただいた。その後、前回のセミナー同様に交流会を行ったが、一連の交流会により、留学生がこの種の交流会でなすべきことに慣れてきた様子が見られた。

#### 外国人留学生対象 企業見学会

平成27年1月21日(水)には、株式会社レクザムにおいて企業見学会を実施した。同社の広範かつ先進的な事業を自身の目で確かめることができる、またとない機会であった。今回は住田副社長をはじめとする日本人社員のみならず、同社に就職した本学卒業の外国人社員も対応にあたってくださった。

#### 外国人社員研修および内定者研修

平成27年1月24日(土)には、外国人社員研修を実施し、筆者が講師を担当した。本研修は、就職した元留学生へのフォローアップの一環として実施された、初めての試みである。就職直後から今までに得た知見を確認しつつ、交流を深めた。同26日(月)には内定者研修を実施し、講師の宝山秀逸氏の体験を踏まえた多岐にわたる内容を学んだ。こちらは、内定から入社までの間に学ぶべきことを習得させることを意図した研修である。

#### ビジネスマナー講座

上記に加え、平成26年11月から12月にわたりビジネスマナー講座も実施された。講師を担当したのは、アビリティセンター株式会社で、就職活動の基本、自己理解、エントリーシート作成、面接対策を扱っている。今回は、幸町および農学部の2つのキャンパスで実施した。

以上は「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業」の一環であるが、それ以外にも、香川県中小企業家同友会によるイベント等が実施され、本学留学生も参加した。



表1 平成26年度留学生就職支援概要

イベント名	実施日	実施場所	参加人数	備考
ビジネス日本語講座 (全5回×2会場)	平成26年 5月27日(火)~	幸町キャンパス 工学部キャンパス	31	人数は延べ数
中小企業の魅力研究セミナー &交流会	平成26年 7月16日(水)	多目的ホール	20	
合同企業説明会 in香川大学	平成26年 7月23日(水)	多目的ホール	11	
留学生採用支援セミナー (実務懇談会)	平成26年 8月1日(金)	教育学部411教室	12	
就職活動準備セミナー	平成26年 10月31日(金)	香川県社会福祉総合センター	20	
留学生採用支援セミナー &交流会	平成26年 11月21日(金)	高松シンボルタワー	28	
留学生活用セミナー &交流会	平成26年 12月10日(水)	高松商工会議所	18	
留学生対象ビジネスマナー講 座 (全5回×2会場)	平成26年 11月26日(水)~	幸町キャンパス 農学部キャンパス	80	人数は延べ数
香川の中小企業家と 留学生の意見交換会	平成27年 1月20日(火)	アイバル香川	6	香川県中小企業家 同友会主催 参加依頼あり
企業見学会	平成27年 1月21日(水)	(株)レクザム香川営業所	31	
外国人社員研修会	平成27年 1月24日(土)	研究交流棟6階	7	
留学生のための内定者研修	平成27年 1月26日(月)	研究交流棟6階	15	

表2 卒業・修了留学生の進路 (平成26年度データ)

進路先	人数	就職先 (産業別)	人数
就職 (国内)	18	製造業	8
就職 (海外)	4	教育・学習支援業	5
進学	9	サービス業	3
就職活動中(国内)	1	情報通信	2
帰国	11	卸売・小売業	1
計	43	不動産業	1
		医療、福祉	1
		計	21

※海外就職者1名は業種不明

## 香川大学インターナショナルオフィス規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人香川大学組織規則第18条の2の規定に基づき、香川大学インターナショナルオフィス（以下「オフィス」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 オフィスは、香川大学（以下「本学」という。）の国際交流の窓口機関として、情報収集及び発信を一元化すると共に、国際戦略の構築並びに教育研究等の国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進することで、本学並びに地域の国際交流の推進に資することを目的とする。

(構成)

第3条 オフィスは前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる組織を置く。

- (1) 国際研究支援センター
- (2) 留学生センター

2 前項の組織に関し必要な事項は別に定める。

(業務)

第4条 オフィスはオフィスを構成する組織の相互の連携協力を図ると共に、次に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の国際化基本方針に基づき、国際交流に係る企画及び立案に関すること。
- (2) 国際交流協定の締結、その他の外国の機関との交流に関すること。
- (3) 国際交流活動に係る情報を収集・分析し、国際交流の推進に必要となる情報を学内外へ提供し、国際的な情報発信の強化に関すること。
- (4) 国際交流推進事業展開のための外部資金獲得に関すること。
- (5) 地域における国際交流の支援に関すること。
- (6) 国際交流に係る危機管理に関すること。
- (7) その他オフィスの管理・運営並びに本学の国際交流推進に関し必要な業務に関すること。

(組織)

第5条 オフィスは、次の各号に掲げる者で組織する。

- (1) オフィス長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員

2 オフィスに副オフィス長を置くことができる。

3 オフィスに、部局に所属しオフィスの業務を兼任する教員（以下「兼任の教員」という。）を置くことができる。

(オフィス長)

第6条 オフィス長の任命は、本学理事及び職員の中から学長が指名する理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 オフィス長は、オフィスの業務を掌理する。
- 3 オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 4 前項の規定にかかわらず、オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(オフィス長の選考時期)

第7条 オフィス長の選考は、次の各号の1に該当する場合に行う。

- (1) 任期が満了するとき。
- (2) 辞任を申し出たとき。
- (3) 欠員となったとき。
- 2 オフィス長の選考は、前項第1号の場合には任期満了の1月以前に、同項第2号又は第3号の場合には速やかに、行うものとする。

(副オフィス長)

第8条 副オフィス長の任命は、本学教職員の中から担当理事又は副学長の申し出に基づき、学長が行う。

- 2 前項の申し出はオフィス長が副オフィス長候補者を担当理事又は副学長に推薦することにより行う。
- 3 副オフィス長はオフィス長の業務を補佐する。
- 4 副オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 5 前項の規定にかかわらず、副オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第9条 専任教員の選考に関し必要な事項は別に定める。

(兼任の教員)

第10条 兼任の教員は、本学専任教員で国際交流の推進に関し専門的知識及び経験を有する者のうち、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が委嘱する。

- 2 兼任の教員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、兼任の教員を指名する学長の任期の末日以前とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、兼任の教員が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第11条 オフィスに、オフィスの重要事項を審議するため、香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）を置く。ただし、オフィス会議の議決事項については、担当理事の承諾を経て決定されるものとする。

2 オフィス会議に関し必要な事項は担当理事が別に定める。

(事務)

第12条 オフィスの事務は、部局の協力を得て国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第13条 この規則に定めるもののほか、オフィスの業務に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成21年10月1日）

1 この規則は、平成21年10月1日から施行する。

2 第11条の担当理事は、当分の間、担当副学長と読み替えて適用する。

附 則（平成23年5月1日）

この規則は、平成23年5月1日から施行する。

## 香川大学インターナショナルオフィス会議規程

### (趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第11条に規定する香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）に関し必要な事項を定める。

### (組織)

第2条 オフィス会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) オフィス長
- (2) オフィス規則第5条第2項に定める副オフィス長
- (3) オフィス規則第3条第1項に定める組織の長
- (4) 専任教員
- (5) オフィス規則第5条第3項に定める兼任の教員
- (6) 教育・学生支援部長
- (7) 学術部長
- (8) 国際グループリーダー
- (9) その他オフィス長が必要と認めた者

2 前項第9号の委員は、学長が任命する。

### (審議事項)

第3条 オフィス会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の企画・推進に関する事項
- (2) 規則その他の制定又は改廃に関する事項
- (3) 組織の設置又は廃止に関する事項
- (4) 教員の選考に関する事項
- (5) 予算及び施設・設備に関する事項
- (6) 評価に関する事項
- (7) その他オフィス長が必要と認める事項

### (会議の主宰及び議長)

第4条 オフィス会議に議長を置き、オフィス長をもって充てる。ただし、オフィス長に事故あるときは、あらかじめオフィス長の指名した者がその職務を代行する。

2 議長は、オフィス会議を主宰する。

3 オフィス会議は、議長の招集により開催するものとする。

### (会議の議事運営)

第5条 オフィス会議は、構成員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

2 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 3 第3条第1項第4号及び第6号の議事については、第2条第1項第9号の委員は可否の数にかかわることができない。
- 4 第2項にかかわらず、特別の必要があるとオフィス会議が認めるときは、第2項に定める要件以外の定めをすることができる。

(構成員以外の者の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、オフィス会議の承認を得て、構成員以外の者を会議に出席させることができる。ただし、この者は、可否の数に加わることができない。

(事務)

第7条 オフィス会議の事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、オフィス会議の議事及び運営の方法について必要な事項は、オフィス会議が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

## 香川大学国際研究支援センター規程

### (趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第3条第2項の規定に基づき、香川大学国際研究支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

### (目的)

第2条 センターは、香川大学（以下「本学」という。）における国際的な研究交流の支援及び本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の実施について中心的な役割を果たすことにより、本学における国際的な学術交流の推進に寄与することを目的とする。

### (業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 特色ある国際共同研究及び国際展開プロジェクトの企画・開発及び推進に関すること。
- (2) 海外の研究機関との交流に関すること。
- (3) 海外学術ネットワークの強化に関すること及び海外の学術動向に関する調査に関すること。
- (4) 海外教育研究拠点校との学術交流の支援に関すること。
- (5) 各部局が実施する学術交流の支援に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な業務。

### (職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター担当教員
- (3) その他必要な職員

2 センターに、副センター長を置くことができる。

### (センター長)

第5条 センター長の任命は、本学職員の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

4 前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。



(副センター長)

第6条 副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

5 前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター担当教員)

第7条 センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年10月1日)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

附 則 (平成23年5月1日)

この規程は、平成23年5月1日から施行する。

## 香川大学留学生センター規程

### (趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という）第3条第2項の規定に基づき、香川大学留学生センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

### (目的)

第2条 センターは、外国人留学生（以下「留学生」という。）及び海外留学を希望する香川大学（以下「本学」という。）の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。

### (業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 留学生の受入に関すること。
- (2) 留学生に対する日本語等の教育に関すること。
- (3) 留学生に対する修学上及び生活上の指導助言等に関すること。
- (4) 留学生に係る奨学に関すること。
- (5) 留学終了者に対するフォローアップに関すること。
- (6) 学生の海外留学に関すること。
- (7) 地域における留学生交流に関すること。
- (8) 留学生教育等に係る調査研究に関すること。
- (9) 留学生会館の管理・運営並びに入退居に関すること。
- (10) その他センターの管理・運営並びに学生の国際交流に関すること。

### (職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター担当教員
- (3) その他必要な職員

2 センターに、副センター長を置くことができる。

### (センター長)

第5条 センター長の任命は、本学専任教授の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

4 前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

5 前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター担当教員)

第7条 センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年10月1日から施行する

## インターナショナルオフィス教職員一覧

2014. 10. 1

教員 ※ (兼) は兼任を示す  
《インターナショナルオフィス》

(兼) オフィス長／<sup>いたの としふみ</sup>板野 俊文

(兼) 副オフィス長／教授／ロン リム

客員教授／<sup>くまがい のぶひろ</sup>熊谷 信広

講師／<sup>ほそだ なおみ</sup>細田 尚美

講師／<sup>たかみず とおる</sup>高水 徹

講師／<sup>しおい みか</sup>塩井 実香

講師／<sup>しょうらく あい</sup>正楽 藍

非常勤教員／<sup>キム ソッフアン</sup>金 錫煥

非常勤教員／デビス, エリック・ジェームズ

非常勤教員／ニワッティサイウオン・セクシリ

非常勤教員／モストファ・ルビ

非常勤教員／マリン・ジェイソン

非常勤教員／セイル・ウィリアム・チェト

(兼) 教授／<sup>たかぎ ゆみこ</sup>高木由美子 (教育学部)

(兼) 教授／ラナデ R. R. (経済学部)

(兼) 教授／<sup>とくだ まさあき</sup>徳田 雅明 (医学部)

(兼) 教授／<sup>さわだ ひでゆき</sup>澤田 秀之 (工学部)

(兼) 教授／<sup>かとう ひさし</sup>加藤 尚 (農学部)

(兼) 教授／<sup>つかだ おさむ</sup>塚田 修  
(地域マネジメント研究科)

(兼) 准教授／<sup>さかわゆか こ</sup>佐川友佳子 (法学部)

〈留学生センター〉

(兼) 留学生センター長／ロン リム

非常勤講師／<sup>あきた せつこ</sup>秋田 節子

非常勤講師／<sup>あきかわ まさよ</sup>早川 理代

非常勤講師／<sup>わだ みちこ</sup>和田 方子

事務職員  
《国際グループ》

リーダー／<sup>なかの ひろひで</sup>中野 宏栄  
担当 総括

サブリーダー／<sup>おまつ しゅんじ</sup>尾松 俊嗣  
インターナショナルオフィス業務

チーフ／<sup>うえた こうじ</sup>上田 幸司  
国際交流業務

チーフ／<sup>あさの ふみえ</sup>浅野 文恵  
留学生業務

チーフ／<sup>いけだ さわこ</sup>池田紗和子  
留学生業務

グループ員／<sup>ふけ てつや</sup>福家 徹也  
留学生業務

グループ員／<sup>やぎ あいこ</sup>八木綾衣子  
国際交流業務

グループ員／<sup>しもやま なおこ</sup>下山 尚子  
国際交流業務

グループ員／<sup>かわにし しょうこ</sup>川西 尚子  
国際交流業務

グループ員／<sup>しまさき ひろこ</sup>嶋崎 寛子  
留学生業務

グループ員／<sup>まつの ふき</sup>松野 芙紀  
留学生業務

《インターナショナルオフィス》

グループ員／<sup>すぎうらみ ちこ</sup>杉浦美智子  
留学生会館業務

グループ員／<sup>つちや まみ</sup>土屋 麻美  
花園寮業務

グループ員／<sup>ひろた みちよ</sup>廣田 裕子  
国際交流業務

香川大学インターナショナルオフィス年報 第6号(2014年度)

発行 平成28年3月31日

発行者 香川大学インターナショナルオフィス

〒760-8521 香川県高松市幸町1-1

TEL：087-832-1194

FAX：087-832-1192

印刷所 牟禮印刷株式会社

TEL：087-822-2600(代)

FAX：087-822-0567, 826-1448









